

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DA0101	看護学研究特論D	1 年/前期	2 単位
担当教員		課 程	
藤原奈佳子		博士後期課程	

授業計画詳細			
授業目的			
博士後期課程の目的は、自立した研究者としてグローバルな視点で看護研究と実践活動（現場と教育）の相互関係の発展を促進させる実践科学として看護学の学問的発展に貢献できる研究者と教育者になることである。そこで本科目では、このような研究者となるために研究目的に応じた研究デザインを選定した研究計画の立て方に焦点を当て、計画から研究結果の導き方にも触れて、自己研究に活用できることをめざす。本科目は、各学生の専門領域の特別研究前の基盤となる共通必修科目として位置づけている。			
授業内容			
独創性・新規性のある研究計画を立てることに焦点を当てるが、その計画からどのようにして結果が導かれるかを確認し、自己研究に活用できる示唆を得られるようにする。			
留意事項			
1. 授業に積極的参加を期待する 2. 授業の課題について事前に情報収集と必要に応じて分析を試みる 3. 自己の研究計画に反映させる なお、本科目の単位修得には、授業時間以外に文献研究、発表時間等、およそ授業時間の 3 倍程度の自己学修を要します。			
教材			
研究論文を中心に適宜使用			
授業計画 （15回）			
1. (藤原 1) 看護研究の目的、特徴、新規性・独創性・社会的価値を考慮した研究の進め方 2. (藤原 2) クオリティーの高い文献検索の実際と管理（特に日本語論文）、研究のタイムスケジュールの立て方 3. (西川 1) 文献検索の実際と管理（英語語論文）、文献管理ソフトの実際、クオリティーの高い論文誌の選択（特に英文誌） 4. (西川 2) 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な量的研究法の基本（1）：研究デザインの選択 5. (西川 3) 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な量的研究法の基礎（2） 6. (西川 4) 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な量的研究法の基礎（3） 7. (西川 5) 看護の知識・技術の向上・開発をめざす介入研究法 研究の質管理としての研究の信頼性・妥当性・一貫性を高める方法の基礎（1） 8. (西川 6) 看護の知識・技術の向上・開発をめざす介入研究法 研究の質管理としての研究の信頼性・妥当性・一貫性を高める方法の基礎（2） 介入研究の登録の意義と実際の方法 9. (藤原 3) 科学者としての研究倫理 と 研究倫理審査申請書作成 10. (藤原 4) 文献クリティークの基礎（1）：質的研究法を含む 11. (藤原 5) 文献クリティークの基礎（2）：量的研究法を含む 12. (藤原 6) 文献クリティークの基礎（3）：実験的研究法を含む 13. (西川 7) 文献クリティークの基礎（4）：混合研究法を含む 14. (藤原 7) 研究結果・考察・結論の示し方、 論文作成のポイント、論文発表と留意点 15. (藤原 8) 研究結果・考察・結論の示し方、 論文作成のポイント、論文発表と留意点			
評価基準			
1. 授業中の質疑・討論 40% 2. 情報収集と分析 30% 3. まとめのレポートと発表討論 30%			

- A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)
- B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
- C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 基本的な研究デザインを学び、自己の研究課題に発展させることができる。				
2. 研究目的に応じた研究デザインを検討し、新たな研究計画を立案できる。				
3. 自身の論文作成に結びつけて、倫理的配慮を踏まえた計画書作成の準備ができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DA0201	疫学応用統計学D	1 年/前期	2 単位
担当教員		課 程	
箕浦 哲嗣		博士後期課程	

授業計画詳細
授業目的 パソコンの発達とともに、保健師や看護師が自ら収集したデータを簡単に分析できるようになりました。しかしながら統計学を理解していないために、間違った結果を提示してしまう過ちも多数見受けられます。医療、看護および保健の分野で必須である統計学について、量的研究の論文を読解できるようになることはもちろん、逆に文献を批判的に読み解く批判的読解力を養うことも目的として、記述統計および推測統計を理解してもらいます。また、医療分野で多く使われている多変量解析に関しても、一部を教授します。
授業内容 本講義は記述統計だけでなく、推測統計の基本である母平均・母比率の推定、平均値の差の検定および比率の差の検定、さらに重回帰分析に始まる多変量解析の初歩までを範囲として、実際に Excel、SPSS あるいは EZR を用いて計算しながら理解を深めます。 自身の研究で参考となる論文を、正しく読みこなせるよう、毎回数点の先行研究を PDF ファイルで持参してください。
評価方法 課題レポート 70% 講義に対するアクティビティ 30%
留意事項 1. 授業に積極的に参加する 2. 授業内容について事前に情報を収集し、必要に応じて分析を試みる 3. 授業内容を自己の研究の計画立案や実践に反映させる
教材 事前に授業支援 CMS よりプリントを配布するので、印刷して参加すること。
授業計画 (15 回) 1. 統計学の基本的概念（保健統計の必要性、データの種類） 2. 記述的解析（度数分布、特性値、散布度、質的データの記述的解析） 3. 記述的解析（グラフの作成、統計的推論の準備）と論文上の標記の解釈 4. 分布（色々な分布、確率分布、正規分布の基礎） 5. 統計的推論（母集団平均の点推定と区間推定、割合の推定） 6. 統計的推論（割合の推定）、仮説検定の考え方 7. 平均値の差の検定（母集団と標本とのつの比較） 8. 平均値の差の検定（2つの母集団の平均値の差の検定） 9. 分散分析法、ノンパラメトリック検定 10. 比率の差の検定（分割表による検定、カイニ乗検定） 11. 相関と回帰、母相関検定 12. 各種検定の演習

13. 重回帰分析とは

14. EZR 等による記述統計の算出、各種検定、重回帰分析およびロジスティック回帰分析

15. まとめ

評価基準

A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)

B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
保健医療データを統計分析する上で基本となる分布や基本統計量についての理解				
健康関連情報処理プロセス（質問紙作成と留意点、データ収集～分析等）の理解				
疫学研究手法の看護研究への適用への理解				
疫学研究における遵守すべき倫理的事項の理解				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DB2101	看護保健管理学特論D	1 年/前期	2
担当教員		課 程	
藤原奈佳子		博士後期課程	

授業計画詳細			
授業目的			
看護管理学は、経済学、経営学、組織論、心理学、社会学、政治学、政策学、社会保障学、医学など幅広い範囲を扱っている。看護周辺領域の学問体系の考え方にもふれながら、看護の質とは何かを探究し、看護の質向上のための方策をみいだす。看護管理の構築の視点から、組織の特性を踏まえた看護管理プログラムの開発に向けて、保健医療・看護政策や医療施設の管理に関連する国内外の文献を批判的に吟味し、看護管理のあるべき姿について探究する。			
授業内容			
自立した実践リーダー・管理者・教育者の育成のために看護管理学は、経済学、経営学、組織論、心理学、社会学、政治学、政策学、社会保障学、医学など幅広い範囲を扱っており、看護周辺領域の学問体系の考え方にもふれながら看護の質とは何かを探究し、看護の質向上をめざす。看護および保健医療政策に関する課題や実践的な看護マネジメントにおける資源の効果的、効率的配分における課題などについての国内外の文献購読をとおして、看護管理学の諸理論を学び、研究動向をとおして研究のプロセスを理解し、自らの研究課題へと発展させる能力を養う。			
留意事項			
各回のテーマに関する国内外論文を検索し、論文内容、研究方法について学習しておくこと。プレゼンテーションは、テーマの理論概説、先行研究や既存資料の観察などを通じた現状分析、自身の体験事例などを統合させて、改善策の提言、看護実践への応用などを含む。討議内容をふまえて課題レポートを作成する。 なお、本科目の単位修得には、授業時間以外に文献研究、発表時間等、およそ授業時間の3倍程度の自己学修を要します。			
教材			
必要文献は都度提示する。 (参考書) ・スティーブンP. ロビンス著、高木晴夫訳：組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社、2009 年 ・中西睦子編集：看護サービス管理、第3巻、医学書院、2007 年			
授業計画 (15 回)			
1-5 「組織行動のマネジメント」を中心に輪読し、心理学・社会学・人類学・政治学などが包含された行動科学について理解する。組織で働く人々を体系的に概観することができる。 6-8 医療政策と看護の質、医療の質に関する課題 看護の質、医療の質に関する研究方法を学び、政策が質にもたらす影響を探究する。 9-11 組織における質の高い看護サービスの提供 組織、組織変革に関する理論を学び、看護サービスの質向上のための方策を探究する。 12-13 財務管理や人材育成などのシステム構築 組織の特性をふまえた看護管理プログラムを提言できる。 14-15 政策研究法と政策評価研究法 看護政策研究に関する文献を吟味し政策研究の手法や評価法を理解する。臨床現場での問題点から政策課題をみだし政策代替案を提言することができる。 (藤原奈佳子／15 回)			
評価基準			
1. 授業への参加状況 30% 2. プレゼンテーション 35% 3. 課題レポート 35%			

- A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)
- B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
- C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 心理学・社会学・人類学・政治学などが包含された行動科学について理解し、組織で働く人々を体系的に概観することができる。				
2. 組織、組織変革に関する理論を学び、看護サービスの質向上のための方策を探究することができる。				
3. 組織の特性をふまえた看護管理プログラムを提言できる。				
4. 政策研究の手法や評価法を理解し、臨床現場での問題点から政策課題をみだし政策代替案を提言することができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DB2201	看護保健管理学演習D	1年/通年	2
担当教員		課 程	
藤原奈佳子		博士後期課程	

授業計画詳細				
授業目的				
看護管理学領域に関連する課題を中心に、国内外の論文や図書などから情報を収集し、自己の研究課題を導く。				
授業内容				
自立した実践リーダー・管理者・教育者の育成のために、看護保健管理学での論文講読は、研究デザインや研究方法の妥当性と信頼性、得られた結果の検討など批判的に精読する。文献検索法、文献整理など研究の基礎的な技術や情報収集能力を修得する。必要な研究方法については、専門書を輪読する。また、既存資料の利用に際して、分析方法、結果の解釈、課題の明確化へと発展させる能力を修得する。学生の関心に応じて先進的取り組みを行っている組織においてフィールドワークを行い、その結果を報告・討議し看護管理上の課題を検討する。				
留意事項				
自己の研究課題を明確にするために、事前に自ら演習計画を立案するなど積極的な準備が必要である。 なお、本科目の単位修得には、授業時間以外に文献研究、発表時間等、およそ授業時間の3倍程度の自己学修を要します。				
教材				
必要文献は都度提示する。 書名：バーンズ&グローブ看護研究入門 著者名：Nancy Burns／Suzan K. Grove／監訳＝黒田裕子他、 出版社・出版年：エルゼビア・ジャパン；原著第5版・2007年 価格：8,640円 著者名：スティーブンP. ロビンス著、高木晴夫訳：組織行動のマネジメント、 出版社・出版年：ダイヤモンド社・2009年				
授業計画 (30回)				
1-6 研究について「バーンズ&グローブ看護研究入門」を中心に購読し、研究計画作成に必要な知識について学習するとともに自己の課題について探究する 7-22 自己の課題について国内外の文献を吟味し、管理に関する理論を含めて課題へのとり組みを論理的にプレゼンテーションすることができる 23-30 ヘルスケアシステムにおける課題について組織変革プログラムや政策提言立案ができ、既存資料の利用に際して、分析方法、結果の解釈、課題の明確化へと発展させることができる （藤原奈佳子／30回）				
評価基準				
1. 授業への参加状況 30% 2. プレゼンテーション 35% 3. 課題レポート 35% A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 研究計画作成に必要な知識について学習するとともに自己の課題について探究することができる。				
2. 自己の課題について国内外の文献を吟味し、管理に関する理論を含めて課題へのとり組みを論理的にプレゼンテーションすることができる。				

3. ヘルスケアシステムにおける課題について組織変革プログラムや政策提言立案ができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DB9103	看護教育管理学特別研究D I	1 年／通年	2
担当教員		課 程	
藤原奈佳子		博士後期課程	

授業計画詳細
授業目的 本研究では、看護教育と看護管理の質保証をめざし、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む看護教育学と看護管理学の領域を看護教育管理学看護学分野としている。その2つの領域での分野は国内外で研究を広げ革新的なケアプログラムの開発やケアシステムの開発を行う。 またグローバルな研究によって専門的で高度な実践と研究の相互発展を促進させる研究者や看護教育者になるために特別研究D Iでは適切で実行可能な研究計画書を作成するために計画発表会で発表し、研究計画審査の準備を目指す。 授業内容 本授業内容は、看護の質保証を重視して専門性の高い看護を行うための科学的な知見を明らかにしていく。看護の現象をより、とらえやすい諸要素に分解し、それらの要素間にどのような関連があるのかについての枠組みの明確化し、看護の実践に有用な研究を国内外の文献を通して幅広く行う。研究は分野の広い視点を基盤として2つの領域のいずれかについて深める看護教育学では看護の改善・改革のために、教育プログラムの開発、これに基づく教育介入研究、教育システムの構築を行う。看護管理は臨床現場での看護管理実践やヘルスケアシステムの改善などについて取り組む。研究の過程を理解し、研究計画書を作成する。研究計画書には研究タイトル、研究動機、研究背景、研究対象、研究枠組みなど、研究の意義（研究の新規性・独創性・看護における意義、社会的価値）、研究デザイン、データ収集法、分析方法、研究の精度を保つ質管理方法、倫理的配慮などを加え、研究計画書を完成する。看護教育学領域では看護教育者として、国際的視点の視野に入れた看護教育学の教育プログラムの開発、看護教育介入方法、教育システムの構築、教育評価、実習評価、看護介入アウトカムのための測定尺度の開発と看護理論モデルについて広く研究に取り組む。 看護管理学領域では、看護保健管理学特論D、看護保健管理学演習Dで得た知識と技術を基に臨床現場での看護管理実践やヘルスケアシステムの改善に結びつく研究テーマを発見し研究に取り組む。主な研究テーマ例は、①看護記録を活用した生活支援システム、②多職種連携と協働、③医療専門職の人的資源活用、④看護実践におけるアウトカム評価、⑤院内の療養環境、⑥病院の機能分化を踏まえたヘルスケアシステム、⑦難病・慢性疾患の継続看護の研究に取り組む。 留意事項 1. 国内外の文献などから情報収集を行い、レビューを作成する。 2. 授業への出席率と研究への積極的な取り組みが求められる。 3. レポートなどの提出物と発表資料は期日ごとに提出する。 教材 ・学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。 授業計画 (30 回) 1-6 看護教育管理学分野の個人に対して講義・演習・討論形式で授業展開：共通成が高く有用な研究課題と手法の代表的な研究例などを用いて下記のプロセスに沿って授業展開を行う。 7-8 原著水準の副論文 1 件以上（学術誌の原著論文として採用される）と博士（看護学）学位論文の完成を目指す条件の確認 9-11 研究テーマと目的を決定：自己の関連研究において国内外文献のクリティークを行い、研究テーマ・研究目的を検討し、研究に関する社会的ニーズの分析・研究の新規性、独創性・社会的価値・研究倫理を明確にする。

12-14 研究デザインの選定、論文レポートと研究方法の適切性・妥当性を具体的に検討				
15-16 研究目的を達成するために実行可能なデータ収集法を選択				
17-19 データ分析法の選択				
20-21 研究プロセスにおいて研究の精度を保つ質管理方法				
22-26 研究計画書を作成				
27-28 看護学研究科委員会による学生と教員参加の「発表会」において準備 発表・討論				
29-30 発表した研究計画の評価に基づいて修正し、研究計画書を完成				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 学術誌での原著論文の水準を確認できる				
2. 研究テーマと目的について社会的ニーズの分析・研究の新規性・独創性・社会的価値・研究倫理を明確にし、研究テーマと目的を決定させる				
3. 適切な研究デザインを選択し、研究の具体的な方法を決定できる				
4. 研究データ収集方法の具体化とデータ分析方法を決定できる				
5. 研究プロセスにおける質管理方法を理解し活用できる				
6. 「発表会」に適切な準備の上で発表し、評価が受けられる				
7. 看護実践の改善、変革または政策への提言のために新しい知見が得られる研究計画書を完成させる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DB9201	看護教育管理学特別研究Ⅱ	2 年／通年	2
担当教員		課 程	
小笠原知枝、篠崎恵美子、藤原奈佳子		博士後期課程	

授業計画詳細
授業目的 本科目では、看護教育と看護管理の質保証をめざし、看護活動の改善・改革のために独創性と新規性の高い実践的研究に取り組む。看護教育管理学分野において実践科学として学問の発展に貢献できるようになるために研究を行う。看護教育管理学分野の教員が指導をする。専門的で高度な実践と研究の相互発展を促進させる研究者や看護教育者になるために、本科目の目的は特別研究Ⅱで準備をした研究計画の審査に合格し、倫理委員会に提出する。また、計画に沿って研究を進め、中間発表会Ⅰで発表する。副論文を学術誌に投稿することを目指して研究をすすめる。 授業内容 本授業内容は、分析において国際的視点で教育プログラム開発やシステム開発、または、看護保健管理学の研究テーマに沿って、現場の看護マネジメントの視点から看護実践の改善・変革のための提案ができる研究を行う。看護教育管理学に関する研究計画に沿って研究を進める。 ①研究データの収集 ②データの分析 ③精度の高い結果を導き、その解釈、妥当性を検討 ④十分な文献による考察、結論を導く。 ⑤「発表会」で評価を得て論文を修正、博士論文の全体的な計画を実行しながら論文を完成する。 ⑥学術誌に投稿する。 看護教育学領域では看護教育者として、国際的視点の視野に入れた看護教育学の教育プログラムの開発、看護教育介入方法、教育システムの構築、教育評価、実習評価、看護介入アウトカムのための測定尺度の開発と看護理論モデルについて広く研究に取り組む。 (小笠原知枝) 主な研究テーマは看護教育学のプログラム開発とこれに基づく教育介入研究、教育評価、実習評価、看護介入アウトカムのための測定尺度の開発と看護理論である。 (篠崎恵美子) 研究テーマはアセスメント能力と対人関係能力の育成のための教育プログラムの開発と教育介入研究。 (伊藤千晴) 倫理的態度育成のための教育プログラムの開発と教育介入研究 (藤原奈佳子) 看護管理学領域では、看護保健管理学特論Ⅱ、看護保健管理学演習Ⅱで得た知識と技術を基に臨床現場での看護管理実践やヘルスケアシステムの改善に結びつく研究テーマを発見し研究に取り組む。主な研究テーマ例は、①看護記録を活用した生活支援システム、②多職種連携と協働、③医療専門職の人的資源活用、④看護実践におけるアウトカム評価、⑤院内の療養環境、⑥病院の機能分化を踏まえたヘルスケアシステム、⑦難病・慢性疾患の継続看護の研究に取り組む。 留意事項 研究の推進、データの収集・分析、データ分析内容に即した副論文の作成、学会発表、学内中間発表の発表内容の精度、内容、評価 教材 ・学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。 授業計画 (15回)

1-2 特別研究Ⅰの研究計画について、研究倫理審査委員会の承認を得て、研究計画に沿って研究の実施準備				
3-6 研究の精度を保つ方法でデータを収集				
7-11 効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果について信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化				
12-16 研究結果に基づいて、副論文について適切な考察と結論を導き論理的にまとめ				
17-23 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討				
24-25 「発表会」において適切な準備の上で発表・討論				
26-30 論文の中間発表会の評価に基づいて論文の修正、学術誌に投稿				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 研究計画の審査に合格することができる				
2. 倫理審査申請書を提出し、承認を得ることができる				
3. 本研究を国際的な研究動向に位置づけて研究を進めることができる				
4. 研究計画に基づいて適切なデータ分析方法によって分析ができる。				
5. 分析結果に基づいて考察と結論を適切に導くことができる。				
6. 研究目的から結論まで論旨一貫性を検討確認できる。				
7. 論文の中間発表会Ⅰで発表し、質疑に適切に対応できる。				
8. 博士（看護学）学位論文に関連する副論文の学術誌を目指して研究を進めることができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DB9201	看護教育管理学特別研究Ⅱ	2 年／通年	2
担当教員		課 程	
小笠原知枝、篠崎恵美子、藤原奈佳子		博士後期課程	

授業計画詳細
授業目的 本科目では、看護教育と看護管理の質保証をめざし、看護活動の改善・改革のために独創性と新規性の高い実践的研究に取り組む。看護教育管理学分野において実践科学として学問の発展に貢献できるようになるために研究を行う。看護教育管理学分野の教員が指導をする。専門的で高度な実践と研究の相互発展を促進させる研究者や看護教育者になるために、本科目の目的は特別研究Ⅱで準備をした研究計画の審査に合格し、倫理委員会に提出する。また、計画に沿って研究を進め、中間発表会Ⅰで発表する。副論文を学術誌に投稿することを目指して研究をすすめる。 授業内容 本授業内容は、分析において国際的視点で教育プログラム開発やシステム開発、または、看護保健管理学の研究テーマに沿って、現場の看護マネジメントの視点から看護実践の改善・変革のための提案ができる研究を行う。看護教育管理学に関する研究計画に沿って研究を進める。 ①研究データの収集 ②データの分析 ③精度の高い結果を導き、その解釈、妥当性を検討 ④十分な文献による考察、結論を導く。 ⑤「発表会」で評価を得て論文を修正、博士論文の全体的な計画を実行しながら論文を完成する。 ⑥学術誌に投稿する。 看護教育学領域では看護教育者として、国際的視点の視野に入れた看護教育学の教育プログラムの開発、看護教育介入方法、教育システムの構築、教育評価、実習評価、看護介入アウトカムのための測定尺度の開発と看護理論モデルについて広く研究に取り組む。 (小笠原知枝) 主な研究テーマは看護教育学のプログラム開発とこれに基づく教育介入研究、教育評価、実習評価、看護介入アウトカムのための測定尺度の開発と看護理論である。 (篠崎恵美子) 研究テーマはアセスメント能力と対人関係能力の育成のための教育プログラムの開発と教育介入研究。 (伊藤千晴) 倫理的態度育成のための教育プログラムの開発と教育介入研究 (藤原奈佳子) 看護管理学領域では、看護保健管理学特論Ⅱ、看護保健管理学演習Ⅱで得た知識と技術を基に臨床現場での看護管理実践やヘルスケアシステムの改善に結びつく研究テーマを発見し研究に取り組む。主な研究テーマ例は、①看護記録を活用した生活支援システム、②多職種連携と協働、③医療専門職の人的資源活用、④看護実践におけるアウトカム評価、⑤院内の療養環境、⑥病院の機能分化を踏まえたヘルスケアシステム、⑦難病・慢性疾患の継続看護の研究に取り組む。 留意事項 研究の推進、データの収集・分析、データ分析内容に即した副論文の作成、学会発表、学内中間発表の発表内容の精度、内容、評価 教材 ・学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。 授業計画 (15回)

1-2 特別研究Ⅰの研究計画について、研究倫理審査委員会の承認を得て、研究計画に沿って研究の実施準備				
3-6 研究の精度を保つ方法でデータを収集				
7-11 効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果について信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化				
12-16 研究結果に基づいて、副論文について適切な考察と結論を導き論理的にまとめ				
17-23 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討				
24-25 「発表会」において適切な準備の上で発表・討論				
26-30 論文の中間発表会の評価に基づいて論文の修正、学術誌に投稿				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 研究計画の審査に合格することができる				
2. 倫理審査申請書を提出し、承認を得ることができる				
3. 本研究を国際的な研究動向に位置づけて研究を進めることができる				
4. 研究計画に基づいて適切なデータ分析方法によって分析ができる。				
5. 分析結果に基づいて考察と結論を適切に導くことができる。				
6. 研究目的から結論まで論旨一貫性を検討確認できる。				
7. 論文の中間発表会Ⅰで発表し、質疑に適切に対応できる。				
8. 博士（看護学）学位論文に関連する副論文の学術誌を目指して研究を進めることができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DB9201	看護教育管理学特別研究Ⅱ	2 年／通年	2
担当教員		課 程	
小笠原知枝、篠崎恵美子、藤原奈佳子		博士後期課程	

授業計画詳細
授業目的 本科目では、看護教育と看護管理の質保証をめざし、看護活動の改善・改革のために独創性と新規性の高い実践的研究に取り組む。看護教育管理学分野において実践科学として学問の発展に貢献できるようになるために研究を行う。看護教育管理学分野の教員が指導をする。専門的で高度な実践と研究の相互発展を促進させる研究者や看護教育者になるために、本科目の目的は特別研究Ⅱで準備をした研究計画の審査に合格し、倫理委員会に提出する。また、計画に沿って研究を進め、中間発表会Ⅰで発表する。副論文を学術誌に投稿することを目指して研究をすすめる。 授業内容 本授業内容は、分析において国際的視点で教育プログラム開発やシステム開発、または、看護保健管理学の研究テーマに沿って、現場の看護マネジメントの視点から看護実践の改善・変革のための提案ができる研究を行う。看護教育管理学に関する研究計画に沿って研究を進める。 ①研究データの収集 ②データの分析 ③精度の高い結果を導き、その解釈、妥当性を検討 ④十分な文献による考察、結論を導く。 ⑤「発表会」で評価を得て論文を修正、博士論文の全体的な計画を実行しながら論文を完成する。 ⑥学術誌に投稿する。 看護教育学領域では看護教育者として、国際的視点の視野に入れた看護教育学の教育プログラムの開発、看護教育介入方法、教育システムの構築、教育評価、実習評価、看護介入アウトカムのための測定尺度の開発と看護理論モデルについて広く研究に取り組む。 (小笠原知枝) 主な研究テーマは看護教育学のプログラム開発とこれに基づく教育介入研究、教育評価、実習評価、看護介入アウトカムのための測定尺度の開発と看護理論である。 (篠崎恵美子) 研究テーマはアセスメント能力と対人関係能力の育成のための教育プログラムの開発と教育介入研究。 (伊藤千晴) 倫理的態度育成のための教育プログラムの開発と教育介入研究 (藤原奈佳子) 看護管理学領域では、看護保健管理学特論Ⅱ、看護保健管理学演習Ⅱで得た知識と技術を基に臨床現場での看護管理実践やヘルスケアシステムの改善に結びつく研究テーマを発見し研究に取り組む。主な研究テーマ例は、①看護記録を活用した生活支援システム、②多職種連携と協働、③医療専門職の人的資源活用、④看護実践におけるアウトカム評価、⑤院内の療養環境、⑥病院の機能分化を踏まえたヘルスケアシステム、⑦難病・慢性疾患の継続看護の研究に取り組む。 留意事項 研究の推進、データの収集・分析、データ分析内容に即した副論文の作成、学会発表、学内中間発表の発表内容の精度、内容、評価 教材 ・学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。 授業計画 (15回)

1-2 特別研究Ⅰの研究計画について、研究倫理審査委員会の承認を得て、研究計画に沿って研究の実施準備				
3-6 研究の精度を保つ方法でデータを収集				
7-11 効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果について信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化				
12-16 研究結果に基づいて、副論文について適切な考察と結論を導き論理的にまとめ				
17-23 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討				
24-25 「発表会」において適切な準備の上で発表・討論				
26-30 論文の中間発表会の評価に基づいて論文の修正、学術誌に投稿				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 研究計画の審査に合格することができる				
2. 倫理審査申請書を提出し、承認を得ることができる				
3. 本研究を国際的な研究動向に位置づけて研究を進めることができる				
4. 研究計画に基づいて適切なデータ分析方法によって分析ができる。				
5. 分析結果に基づいて考察と結論を適切に導くことができる。				
6. 研究目的から結論まで論旨一貫性を検討確認できる。				
7. 論文の中間発表会Ⅰで発表し、質疑に適切に対応できる。				
8. 博士（看護学）学位論文に関連する副論文の学術誌を目指して研究を進めることができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DB9302	看護教育管理学特別研究ⅡⅢ	3 年／通年	2
担当教員		課 程	
篠崎恵美子		博士後期課程	

授業計画詳細
授業目的 本研究では、看護教育・看護保健管理の質保証をめざして、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む看護教育学と看護保健管理学の領域を看護教育管理学分野としている。その2つの領域での広い分野でいずれかについても深め、革新的なケアプログラムの開発やケアシステムの開発などを行う。グローバルな研究によって専門的で高度な実践と研究の相互発展を促進させる研究者や看護教育者になることをめざす。特別研究ⅡⅢの目的は、独創性があり先駆的な論文を作成することである。そのために国際学会での発表、副論文の学術誌への掲載、中間発表会Ⅱでの発表、博士論文予備審査を経て、博士本論文を期限内に提出することを目指す。 授業内容 特別研究ⅡⅢでは、以下のプロセスに沿って授業展開を行う。 特別研究Ⅰ・Ⅱの内容水準と研究プロセスを経て博士学位論文の予備審査に合格した後、本論文の博士（看護学）学位論文を完成させ、その最終審査に合格することである。 特別研究ⅡⅢの研究経過に基づいて、研究結果を見直し、適切な考察と結論を導きまとめる。研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討、「博士（看護学）学位論文中間発表会（2回目）、研究科委員会において論文審査委員（3名）の口答諮問による予備審査に合格し、論文の最終審査に合格できるようにする。 看護教育学領域では看護教育者として、国際的視点の視野に入れた看護教育学の教育プログラムの開発、看護教育介入方法、教育システムの構築、教育評価、実習評価、看護介入アウトカムのための測定尺度の開発と看護理論モデルについて広く研究に取り組む。 研究テーマはアセスメント能力と対人関係能力の育成のための教育プログラムの開発と教育介入研究。 学生の研究テーマに沿って研究の集大成として特別研究Ⅲでは、独創性があり、先駆的な例えば、（教育研究では患者や家族をサポートする看護学生に対人関係能力育成の達成の教育プログラムの開発など）、を作成する。 留意事項 1) 現場志向型研究の過程と方法を修得する。 2) 論理的・分析的思考に基づいた論文作成 3) 期日までに論文を仕上げる 教材 ・ 学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・ 教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。 授業計画 （30 回） 1-5 グループと個人に対して講義・演習・討論形式で授業展開 1-6 特別研究ⅡⅢの研究経過に基づいてさらに研究結果を見直し、適切な考察と結論を記述 7-14 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討 15-20 研究科委員会が開催する学生と教員参加による「論文発表」において適切な準備の上で発表・討論 21-30 発表した論文の評価に基づいて修正 独創性・新規性のある論文を作成し、原著論文として投稿 評価基準 独創性があり先駆的な原著論文を作成する。

- A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)
- B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
- C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 博士論文の目的から結論までの概要をまとめることができる。				
2. 論文の中間発表会Ⅱで発表し質疑に適切に対応できる。				
3. 論文の発表会で発表し、質疑に適切に対応できる。				
4. 独創性・新規性のある論文を作成し、副論文を原著論文として投稿し学術誌に掲載できる。				
5. 国際学会で発表ができる。				
6. 博士論文予備審査を受けることができる。				
7. 期日までに博士論文を提出することができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DB9303	看護教育管理学特別研究ⅡⅢ	3 年／通年	2
担当教員		課 程	
藤原奈佳子		博士後期課程	

授業計画詳細			
授業目的			
本研究では、看護教育・看護保健管理の質保証をめざして、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む看護教育学と看護保健管理学の領域を看護教育管理学分野としている。その2つの領域での広い分野でいずれかについても深め、革新的なケアプログラムの開発やケアシステムの開発などを行う。グローバルな研究によって専門的で高度な実践と研究の相互発展を促進させる研究者や看護教育者になることをめざす。特別研究ⅡⅢの目的は、独創性があり先駆的な論文を作成することである。そのために国際学会での発表、副論文の学術誌への掲載、中間発表会Ⅱでの発表、博士論文予備審査を経て、博士本論文を期限内に提出することを目指す。			
授業内容			
特別研究ⅡⅢでは、以下のプロセスに沿って授業展開を行う。 特別研究Ⅰ・Ⅱの内容水準と研究プロセスを経て博士学位論文の予備審査に合格した後、本論文の博士（看護学）学位論文を完成させ、その最終審査に合格することである。 特別研究ⅡⅢの研究経過に基づいて、研究結果を見直し、適切な考察と結論を導きまとめる。研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討、「博士（看護学）学位論文中間発表会（2回目）、研究科委員会において論文審査委員（3名）の口答諮問による予備審査に合格し、論文の最終審査に合格できるようにする。 看護教育学領域では看護教育者として、国際的視点の視野に入れた看護教育学の教育プログラムの開発、看護教育介入方法、教育システムの構築、教育評価、実習評価、看護介入アウトカムのための測定尺度の開発と看護理論モデルについて広く研究に取り組む。 看護管理学領域では、看護保健管理学特論Ⅱ、看護保健管理学演習Ⅱで得た知識と技術を基に臨床現場での看護管理実践やヘルスケアシステムの改善に結びつく研究テーマを発見し研究に取り組む。 主な研究テーマ例は、①看護記録を活用した生活支援システム、②多職種連携と協働、③医療専門職の人的資源活用、④看護実践におけるアウトカム評価、⑤院内の療養環境、⑥病院の機能分化を踏まえたヘルスケアシステム、⑦難病・慢性疾患の継続看護の研究に取り組む。 研究結果から例えば、（現場の看護実践の改善・変革のための提言、保健医療制度をマネジメントする視点から政策への提言など）の論文を作成し、以下の内容水準と研究プロセスを経て博士学位論文の予備審査に合格した後、本論文の博士（看護学）学位論文を完成させ、その最終審査に合格することである。特別研究ⅡⅢの研究経過に基づいて、研究結果を見直し、適切な考察と結論を導きまとめる。研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討し、原著論文を完成させる。			
留意事項			
1) 現場志向型研究の過程と方法を修得する。 2) 論理的・分析的思考に基づいた論文作成 3) 期日までに論文を仕上げる			
教材			
・ 学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・ 教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。			
授業計画 （30 回）			
1-5 グループと個人に対して講義・演習・討論形式で授業展開 1-6 特別研究ⅡⅢの研究経過に基づいてさらに研究結果を見直し、適切な考察と結論を記述 7-14 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討 15-20 研究科委員会が開催する学生と教員参加による「論文発表」において適切な準備の上で発表・討論			

21-30 発表した論文の評価に基づいて修正 独創性・新規性のある論文を作成し、原著論文として投稿				
評価基準				
独創性があり先駆的な原著論文を作成する。				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 博士論文の目的から結論までの概要をまとめることができる。				
2. 論文の中間発表会Ⅱで発表し質疑に適切に対応できる。				
3. 論文の発表会で発表し、質疑に適切に対応できる。				
4. 独創性・新規性のある論文を作成し、副論文を原著論文として投稿し学術誌に掲載できる。				
5. 国際学会で発表ができる。				
6. 博士論文予備審査を受けることができる。				
7. 期日までに博士論文を提出することができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DD9204	成人・高齢者看護学特別研究Ⅱ	2年/通年	2
担当教員		課程	
伊藤千晴		博士後期	

授業計画詳細

授業目的

特別研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの目的は自立した研究者として実践科学としての看護学の学問的発展に貢献できる創造的・活動的な研究ができる能力を身につけることである。そのために、特別研究Ⅱでは、特別研究Ⅰで作成した研究計画に沿って適切に研究を進め、新規性・独創性のある論文を作成し、学術誌に投稿することを目指す。

授業内容

本特別研究Ⅱでは、特別研究Ⅰで挙げた研究テーマ例との関連で、各自の問題意識を加えて設定した研究計画に沿って研究目的を達成するために適切に研究を進め、新規性・独創性のある原著論文を作成し、学術誌に副論文として投稿するまでのプロセスを含む。成人・高齢者看護学分野の対象である患者と家族、看護を提供する専門職等に対しては、特に選択と意思決定および倫理的調整がケアの重要な要件となるため、データ収集においては承諾とデータの精度を確保する方法に留意して行う必要がある。次に、さらに適切なデータ分析を行い、精度の高い結果を導き、その解釈の妥当性を検討し、十分な文献検討により考察と結論を導く。論文の全体的な計画を実行しながら論文を完成させ学術誌に投稿する。なお、担当教員が指導可能な研究テーマは、特別研究Ⅰに示したとおりである。

指導可能な研究テーマは以下のとおりである。

成人急性・重篤期における主として実験・介入研究の指導を担当する。研究テーマは①神経系酵素の活性化機序と関連因子に関する研究、②集中治療室における各種ケア技術の有効性に関する研究、③集中治療室入室患者及び勤務看護師のストレスに関する研究、④急性期患者のQOLの測定とその変化に関する縦断研究など。

エンド・オブ・ライフケア領域における患者および家族、看護師（中堅看護師、エキスパートナース）への介入研究やシステム開発研究を担当する。指導可能な研究テーマは ①がん患者の痛みの測定尺度開発、②ターミナル期における疼痛管理妨害因子の分析とスタッフ教育、③エンド・オブ・ライフ・ケアの国際比較研究、④がん患者とその家族の不安・苦痛の分析と防御規制・スピリチュアルケア、⑤がん患者の自己決定支援プロセスに関する研究、⑥看護師の感情労働測定尺度の開発などである。

ターミナル期における質の評価研究やシステム開発研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①在宅要介護高齢者の終末期ケアにおける緊急的ニーズの分析、②遺族による在宅ターミナルケアの質評価、③地域在住の軽度要介護高齢者の自立促進プログラムとその評価、④終末期高齢者の入所・死亡に関連する要因分析などである。

主として量的研究による要因分析や準実験（介入）研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①重度認知症高齢者の日常生活支援技術の開発と研修プログラム、②セルフネグレクト予防のための地域見守り基準の策定、③軽度認知症高齢者のその人らしさを支える各種活動と効果判定、④養護者による高齢者虐待の要因分析と各種サービスの課題分析、⑤施設職員による高齢者虐待の防止に関する介入研究などである。

地域高齢者や施設入所高齢者に対する転倒要因分析研究において量的相関研究と、質的研究では内容分析を担当する。指導可能な研究テーマは、①在宅高齢者の転倒要因分析（特に転倒意識との関連）、②介護老人保健施設における高齢者の転倒実態と要因分析、③高齢者のソフト食に関する研究、④サクセスエイジングに関連する各種アクティビティケアとその効果判定に関する研究などを担当する。

留意事項

1. 科学文献などから情報収集と分析、論理的な文章化が求められる。
2. レポートなどの提出物は期日ごとに提出する。

3. 研究への主体的・積極的な取り組み、行動力が求められる。				
教材				
1. 学生は自己の研究課題に関連した参考文献は自身で検索する。 2. 教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。				
授業計画 (30 回)				
特別研究Ⅰで作成した研究計画書に添って研究を遂行する。 1-3 特別研究Ⅰの研究計画について、研究倫理審査委員会の承認を得て、研究計画に沿って研究の実施準備 4-14 研究の精度を保つ方法でデータを収集 15-18 効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果について信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化 19-22 研究結果に基づいて、副論文について適切な考察と結論を導き論理的にまとめる 23-24 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討 25-26 学生と教員参加による「論文発表会」において適切な準備の上で発表・討論 27-28 「論文発表会」の評価に基づいて論文の修正 29-30 論文に関連する内容で論文を学術誌に投稿				
評価基準				
科目の到達目標の到達度から評価する。 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 3 名による審査に合格（倫理審査提出前）できる				
2. 倫理審査申請書の提出ができる				
3. 研究計画に沿って精度を保つ方法でデータが収集できる。				
4. 適切なデータ分析方法によって分析ができる。				
5. 分析結果に基づいて考察と結論を適切に導くことができる。				
6. 研究目的から結論まで論旨一貫性を検討確認できる。				
7. 「論文発表会」で発表し、質疑に適切に対応できる。				
8. 副論文の学会投稿を目指して、研究を進めることができる（3 月末まで）				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DD9301	成人・高齢者看護学特別研究ⅡⅢ	1年/通年	2
担当教員		課程	
篠崎恵美子		博士後期	

授業計画詳細

授業目的

特別研究ⅡⅠ、Ⅱ、Ⅲの目的は自立した研究者として実践科学としての看護学の学問的発展に貢献できる創造的・活動的な研究ができる能力を身につけることである。そのために、特別研究ⅡⅡでは、ⅡⅠで作成した研究計画に沿って、適切に研究を進め、新規性・独創性のある原著論文を作成し、学術誌に論文として投稿した。特別研究ⅡⅢの目的は、独創性があり新規的・先駆的な論文を完成させることである。

授業内容

特別研究ⅡⅢでは、ⅡⅠとⅡⅡに引き続き、博士論文としてまとめるプロセスを踏む。その過程において、成人・高齢者看護学領域におけるケアの質保証をめざしていること、その研究は、新規性・独創性があること、ケアの現場に利用価値があること、研究と実践との相互関係的な発展を促すものであることを確認しながら進める。研究成果は適切な時期に、国内および国際学会で発表できるようにする。具体的には、特別研究ⅡⅢでは、特別研究ⅡⅠとⅡⅡの研究経過に基づいて、研究結果を見直し、適切な考察と結論を導きまとめる。研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討、授業計画に示す研究プロセスを経て原著論文を完成させる。

指導可能な研究テーマは以下のとおりである。

成人急性・重篤期における主として実験・介入研究の指導を担当する。研究テーマは①神経系酵素の活性化機序と関連因子に関する研究、②集中治療室における各種ケア技術の有効性に関する研究、③集中治療室入室患者及び勤務看護師のストレスに関する研究、④急性期患者の QOL の測定とその変化に関する縦断研究など。

エンド・オブ・ライフケア領域における患者および家族、看護師（中堅看護師、エキスパートナース）への介入研究やシステム開発研究を担当する。指導可能な研究テーマは ①がん患者の痛みの測定尺度開発、②ターミナル期における疼痛管理妨害因子の分析とスタッフ教育、③エンド・オブ・ライフ・ケアの国際比較研究、④がん患者とその家族の不安・苦痛の分析と防御規制・スピリチュアルケア、⑤がん患者の自己決定支援プロセスに関する研究、⑥看護師の感情労働測定尺度の開発などである。

ターミナル期における質の評価研究やシステム開発研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①在宅要介護高齢者の終末期ケアにおける緊急的ニーズの分析、②遺族による在宅ターミナルケアの質評価、③地域在住の軽度要介護高齢者の自立促進プログラムとその評価、④終末期高齢者の入所・死亡に関連する要因分析などである。

主として量的研究による要因分析や準実験（介入）研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①重度認知症高齢者の日常生活支援技術の開発と研修プログラム、②セルフネグレクト予防のための地域見守り基準の策定、③軽度認知症高齢者のその人らしさを支える各種活動と効果判定、④養護者による高齢者虐待の要因分析と各種サービスの課題分析、⑤施設職員による高齢者虐待の防止に関する介入研究などである。

地域高齢者や施設入所高齢者に対する転倒要因分析研究において量的相関研究と、質的研究では内容分析を担当する。指導可能な研究テーマは、①在宅高齢者の転倒要因分析（特に転倒意識との関連）、②介護老人保健施設における高齢者の転倒実態と要因分析、③高齢者のソフト食に関する研究、④サクセスエイジングに関連する各種アクティビティケアとその効果判定に関する研究などを担当する。

留意事項

1. 成人・高齢者看護学分野の各領域の国際研究動向に位置づけて研究する。
2. 論文作成では論旨の一貫性に特に留意する。
3. 期日までに論文を完成させる。

教材

1. 学生は自己の研究課題に関連した参考文献は自身で検索する。 2. 教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。				
授業計画 (30 回)				
グループと個人に対して講義・演習・討論形式で授業展開する。 1-5 特別研究DⅡの研究経過に基づいてさらに研究結果を見直し、適切な考察と結論を記述 6-10 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討 11-15 研究科委員会が開催する学生と教員参加による「博士（看護学）学位論文中間発表会2回」において適切な準備の上で発表・討論 16-20 発表した論文の評価に基づいて修正 21-24 「博士（看護学）学位論文最終発表会」において発表・討論 25-30 評価に基づいて論文の修正を行い、論文を提出				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価する。 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 成人・看護学分野・各領域の看護学の国際研究動向に位置づけて研究する。				
2. 研究計画に基づいて適切なデータ分析方法によって分析できる。				
3. 分析結果に基づいて、考察と結論を適切に導くことができる。				
4. 研究目的から結論まで論旨の一貫性を検討確認できる。				
5. 博士論文の予備審査に合格できる				
6. 副論文の掲載又は掲載証明を提出できる				
7. 国際学会で発表できる				
8. 博士本論文の提出を目指して、研究を進めることができる				
9. 論文を最終発表会で発表し、質疑に適切に対応できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DD9302	成人・高齢者看護学特別研究ⅡⅢ	1年/通年	2
担当教員		課程	
小笠原知枝		博士後期	

授業計画詳細

授業目的

特別研究ⅡⅠ、Ⅱ、Ⅲの目的は自立した研究者として実践科学としての看護学の学問的発展に貢献できる創造的・活動的な研究ができる能力を身につけることである。そのために、特別研究ⅡⅡでは、ⅡⅠで作成した研究計画に沿って、適切に研究を進め、新規性・独創性のある原著論文を作成し、学術誌に論文として投稿した。特別研究ⅡⅢの目的は、独創性があり新規的・先駆的な論文を完成させることである。

授業内容

特別研究ⅡⅢでは、ⅡⅠとⅡⅡに引き続き、博士論文としてまとめるプロセスを踏む。その過程において、成人・高齢者看護学領域におけるケアの質保証をめざしていること、その研究は、新規性・独創性があること、ケアの現場に利用価値があること、研究と実践との相互関係的な発展を促すものであることを確認しながら進める。研究成果は適切な時期に、国内および国際学会で発表できるようにする。具体的には、特別研究ⅡⅢでは、特別研究ⅡⅠとⅡⅡの研究経過に基づいて、研究結果を見直し、適切な考察と結論を導きまとめる。研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討、授業計画に示す研究プロセスを経て原著論文を完成させる。

指導可能な研究テーマは以下のとおりである。

成人急性・重篤期における主として実験・介入研究の指導を担当する。研究テーマは①神経系酵素の活性化機序と関連因子に関する研究、②集中治療室における各種ケア技術の有効性に関する研究、③集中治療室入室患者及び勤務看護師のストレスに関する研究、④急性期患者の QOL の測定とその変化に関する縦断研究など。

エンド・オブ・ライフケア領域における患者および家族、看護師（中堅看護師、エキスパートナース）への介入研究やシステム開発研究を担当する。指導可能な研究テーマは ①がん患者の痛みの測定尺度開発、②ターミナル期における疼痛管理妨害因子の分析とスタッフ教育、③エンド・オブ・ライフ・ケアの国際比較研究、④がん患者とその家族の不安・苦痛の分析と防御規制・スピリチュアルケア、⑤がん患者の自己決定支援プロセスに関する研究、⑥看護師の感情労働測定尺度の開発などである。

ターミナル期における質の評価研究やシステム開発研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①在宅要介護高齢者の終末期ケアにおける緊急的ニーズの分析、②遺族による在宅ターミナルケアの質評価、③地域在住の軽度要介護高齢者の自立促進プログラムとその評価、④終末期高齢者の入所・死亡に関連する要因分析などである。

主として量的研究による要因分析や準実験（介入）研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①重度認知症高齢者の日常生活支援技術の開発と研修プログラム、②セルフネグレクト予防のための地域見守り基準の策定、③軽度認知症高齢者のその人らしさを支える各種活動と効果判定、④養護者による高齢者虐待の要因分析と各種サービスの課題分析、⑤施設職員による高齢者虐待の防止に関する介入研究などである。

地域高齢者や施設入所高齢者に対する転倒要因分析研究において量的相関研究と、質的研究では内容分析を担当する。指導可能な研究テーマは、①在宅高齢者の転倒要因分析（特に転倒意識との関連）、②介護老人保健施設における高齢者の転倒実態と要因分析、③高齢者のソフト食に関する研究、④サクセスエイジングに関連する各種アクティビティケアとその効果判定に関する研究などを担当する。

留意事項

1. 成人・高齢者看護学分野の各領域の国際研究動向に位置づけて研究する。
2. 論文作成では論旨の一貫性に特に留意する。
3. 期日までに論文を完成させる。

教材

1. 学生は自己の研究課題に関連した参考文献は自身で検索する。 2. 教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。				
授業計画 (30 回)				
グループと個人に対して講義・演習・討論形式で授業展開する。 1-5 特別研究DⅡの研究経過に基づいてさらに研究結果を見直し、適切な考察と結論を記述 6-10 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討 11-15 研究科委員会が開催する学生と教員参加による「博士（看護学）学位論文中間発表会 2 回」において適切な準備の上で発表・討論 16-20 発表した論文の評価に基づいて修正 21-24 「博士（看護学）学位論文最終発表会」において発表・討論 25-30 評価に基づいて論文の修正を行い、論文を提出				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価する。 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 成人・看護学分野・各領域の看護学の国際研究動向に位置づけて研究する。				
2. 研究計画に基づいて適切なデータ分析方法によって分析できる。				
3. 分析結果に基づいて、考察と結論を適切に導くことができる。				
4. 研究目的から結論まで論旨の一貫性を検討確認できる。				
5. 博士論文の予備審査に合格できる				
6. 副論文の掲載又は掲載証明を提出できる				
7. 国際学会で発表できる				
8. 博士本論文の提出を目指して、研究を進めることができる				
9. 論文を最終発表会で発表し、質疑に適切に対応できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DD9303	成人・高齢者看護学特別研究ⅡⅢ	1年/通年	2
担当教員		課程	
伊藤千晴		博士後期	

授業計画詳細

授業目的

特別研究ⅡⅠ、Ⅱ、Ⅲの目的は自立した研究者として実践科学としての看護学の学問的発展に貢献できる創造的・活動的な研究ができる能力を身につけることである。そのために、特別研究ⅡⅡでは、ⅡⅠで作成した研究計画に沿って、適切に研究を進め、新規性・独創性のある原著論文を作成し、学術誌に論文として投稿した。特別研究ⅡⅢの目的は、独創性があり新規的・先駆的な論文を完成させることである。

授業内容

特別研究ⅡⅢでは、ⅡⅠとⅡⅡに引き続き、博士論文としてまとめるプロセスを踏む。その過程において、成人・高齢者看護学領域におけるケアの質保証をめざしていること、その研究は、新規性・独創性があること、ケアの現場に利用価値があること、研究と実践との相互関係的な発展を促すものであることを確認しながら進める。研究成果は適切な時期に、国内および国際学会で発表できるようにする。具体的には、特別研究ⅡⅢでは、特別研究ⅡⅠとⅡⅡの研究経過に基づいて、研究結果を見直し、適切な考察と結論を導きまとめる。研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討、授業計画に示す研究プロセスを経て原著論文を完成させる。

指導可能な研究テーマは以下のとおりである。

成人急性・重篤期における主として実験・介入研究の指導を担当する。研究テーマは①神経系酵素の活性化機序と関連因子に関する研究、②集中治療室における各種ケア技術の有効性に関する研究、③集中治療室入室患者及び勤務看護師のストレスに関する研究、④急性期患者の QOL の測定とその変化に関する縦断研究など。

エンド・オブ・ライフケア領域における患者および家族、看護師（中堅看護師、エキスパートナース）への介入研究やシステム開発研究を担当する。指導可能な研究テーマは ①がん患者の痛みの測定尺度開発、②ターミナル期における疼痛管理妨害因子の分析とスタッフ教育、③エンド・オブ・ライフ・ケアの国際比較研究、④がん患者とその家族の不安・苦痛の分析と防御規制・スピリチュアルケア、⑤がん患者の自己決定支援プロセスに関する研究、⑥看護師の感情労働測定尺度の開発などである。

ターミナル期における質の評価研究やシステム開発研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①在宅要介護高齢者の終末期ケアにおける緊急的ニーズの分析、②遺族による在宅ターミナルケアの質評価、③地域在住の軽度要介護高齢者の自立促進プログラムとその評価、④終末期高齢者の入所・死亡に関連する要因分析などである。

主として量的研究による要因分析や準実験（介入）研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①重度認知症高齢者の日常生活支援技術の開発と研修プログラム、②セルフネグレクト予防のための地域見守り基準の策定、③軽度認知症高齢者のその人らしさを支える各種活動と効果判定、④養護者による高齢者虐待の要因分析と各種サービスの課題分析、⑤施設職員による高齢者虐待の防止に関する介入研究などである。

地域高齢者や施設入所高齢者に対する転倒要因分析研究において量的相関研究と、質的研究では内容分析を担当する。指導可能な研究テーマは、①在宅高齢者の転倒要因分析（特に転倒意識との関連）、②介護老人保健施設における高齢者の転倒実態と要因分析、③高齢者のソフト食に関する研究、④サクセスエイジングに関連する各種アクティビティケアとその効果判定に関する研究などを担当する。

留意事項

1. 成人・高齢者看護学分野の各領域の国際研究動向に位置づけて研究する。
2. 論文作成では論旨の一貫性に特に留意する。
3. 期日までに論文を完成させる。

教材

1. 学生は自己の研究課題に関連した参考文献は自身で検索する。 2. 教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。				
授業計画 (30 回)				
グループと個人に対して講義・演習・討論形式で授業展開する。 1-5 特別研究DⅡの研究経過に基づいてさらに研究結果を見直し、適切な考察と結論を記述 6-10 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討 11-15 研究科委員会が開催する学生と教員参加による「博士（看護学）学位論文中間発表会 2 回」において適切な準備の上で発表・討論 16-20 発表した論文の評価に基づいて修正 21-24 「博士（看護学）学位論文最終発表会」において発表・討論 25-30 評価に基づいて論文の修正を行い、論文を提出				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価する。 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 成人・看護学分野・各領域の看護学の国際研究動向に位置づけて研究する。				
2. 研究計画に基づいて適切なデータ分析方法によって分析できる。				
3. 分析結果に基づいて、考察と結論を適切に導くことができる。				
4. 研究目的から結論まで論旨の一貫性を検討確認できる。				
5. 博士論文の予備審査に合格できる				
6. 副論文の掲載又は掲載証明を提出できる				
7. 国際学会で発表できる				
8. 博士本論文の提出を目指して、研究を進めることができる				
9. 論文を最終発表会で発表し、質疑に適切に対応できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DD9304	成人・高齢者看護学特別研究ⅡⅢ	1年/通年	2
担当教員		課程	
藤原奈佳子		博士後期	

授業計画詳細			
授業目的			
特別研究ⅡⅠ、Ⅱ、Ⅲの目的は自立した研究者として実践科学としての看護学の学問的発展に貢献できる創造的・活動的な研究ができる能力を身につけることである。そのために、特別研究ⅡⅡでは、ⅡⅠで作成した研究計画に沿って、適切に研究を進め、新規性・独創性のある原著論文を作成し、学術誌に論文として投稿した。特別研究ⅡⅢの目的は、独創性があり新規的・先駆的な論文を完成させることである。			
授業内容			
特別研究ⅡⅢでは、ⅡⅠとⅡⅡに引き続き、博士論文としてまとめるプロセスを踏む。その過程において、成人・高齢者看護学領域におけるケアの質保証をめざしていること、その研究は、新規性・独創性があること、ケアの現場に利用価値があること、研究と実践との相互関係的な発展を促すものであることを確認しながら進める。研究成果は適切な時期に、国内および国際学会で発表できるようにする。具体的には、特別研究ⅡⅢでは、特別研究ⅡⅠとⅡⅡの研究経過に基づいて、研究結果を見直し、適切な考察と結論を導きまとめる。研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討、授業計画に示す研究プロセスを経て原著論文を完成させる。 指導可能な研究テーマは以下のとおりである。 成人急性・重篤期における主として実験・介入研究の指導を担当する。研究テーマは①神経系酵素の活性化機序と関連因子に関する研究、②集中治療室における各種ケア技術の有効性に関する研究、③集中治療室入室患者及び勤務看護師のストレスに関する研究、④急性期患者の QOL の測定とその変化に関する縦断研究など。 エンド・オブ・ライフケア領域における患者および家族、看護師（中堅看護師、エキスパートナース）への介入研究やシステム開発研究を担当する。指導可能な研究テーマは ①がん患者の痛みの測定尺度開発、②ターミナル期における疼痛管理妨害因子の分析とスタッフ教育、③エンド・オブ・ライフ・ケアの国際比較研究、④がん患者とその家族の不安・苦痛の分析と防御規制・スピリチュアルケア、⑤がん患者の自己決定支援プロセスに関する研究、⑥看護師の感情労働測定尺度の開発などである。 ターミナル期における質の評価研究やシステム開発研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①在宅要介護高齢者の終末期ケアにおける緊急的ニーズの分析、②遺族による在宅ターミナルケアの質評価、③地域在住の軽度要介護高齢者の自立促進プログラムとその評価、④終末期高齢者の入所・死亡に関連する要因分析などである。 主として量的研究による要因分析や準実験（介入）研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①重度認知症高齢者の日常生活支援技術の開発と研修プログラム、②セルフネグレクト予防のための地域見守り基準の策定、③軽度認知症高齢者のその人らしさを支える各種活動と効果判定、④養護者による高齢者虐待の要因分析と各種サービスの課題分析、⑤施設職員による高齢者虐待の防止に関する介入研究などである。 地域高齢者や施設入所高齢者に対する転倒要因分析研究において量的相関研究と、質的研究では内容分析を担当する。指導可能な研究テーマは、①在宅高齢者の転倒要因分析（特に転倒意識との関連）、②介護老人保健施設における高齢者の転倒実態と要因分析、③高齢者のソフト食に関する研究、④サクセスエイジングに関連する各種アクティビティケアとその効果判定に関する研究などを担当する。			
留意事項			
1. 成人・高齢者看護学分野の各領域の国際研究動向に位置づけて研究する。 2. 論文作成では論旨の一貫性に特に留意する。 3. 期日までに論文を完成させる。			
教材			

1. 学生は自己の研究課題に関連した参考文献は自身で検索する。 2. 教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。				
授業計画 (30 回)				
グループと個人に対して講義・演習・討論形式で授業展開する。 1-5 特別研究DⅡの研究経過に基づいてさらに研究結果を見直し、適切な考察と結論を記述 6-10 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討 11-15 研究科委員会が開催する学生と教員参加による「博士（看護学）学位論文中間発表会 2 回」において適切な準備の上で発表・討論 16-20 発表した論文の評価に基づいて修正 21-24 「博士（看護学）学位論文最終発表会」において発表・討論 25-30 評価に基づいて論文の修正を行い、論文を提出				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価する。 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 成人・看護学分野・各領域の看護学の国際研究動向に位置づけて研究する。				
2. 研究計画に基づいて適切なデータ分析方法によって分析できる。				
3. 分析結果に基づいて、考察と結論を適切に導くことができる。				
4. 研究目的から結論まで論旨の一貫性を検討確認できる。				
5. 博士論文の予備審査に合格できる				
6. 副論文の掲載又は掲載証明を提出できる				
7. 国際学会で発表できる				
8. 博士本論文の提出を目指して、研究を進めることができる				
9. 論文を最終発表会で発表し、質疑に適切に対応できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DE9202	広域看護学特別研究Ⅱ	2年/通年	2単位
担当教員		課 程	
篠崎恵美子		博士後期課程	

授業計画詳細	
授業目的	
目的は在宅看護学、地域看護学、国際保健看護学、精神看護学の領域を広域看護学分野としている。看護の対象となる人々のQOLの向上を目指して、社会情勢の急激な変化から生じる顕在化した健康課題や潜在する健康課題を解決するために、研究を用いて解決の方法を見出すことにある。最初の段階である課題を明確にすること、さらに研究目的、方法（対象と調査方法）を明確にし、ケースコントロール研究、コホート研究などのよりエビデンス水準の高い研究計画や複雑な現象を、厳密性を確保した方法で読み解き、ケアの質向上に寄与できる研究計画について教授する。看護研究と実践の相互関係的発展を促進させる実践科学として学問的発展に貢献できる高度で活動的・創造的な自立した研究者・教育者をめざし、フィールドに出て対象者からデータの収集を行い、得られたデータを解析し、信頼性と妥当性を備えた結果解釈を行い、考察へと導く。さらに国際学会に発表し、論文を学会誌に投稿するための準備ができる。	
授業内容	
特別研究Ⅱで作成した研究計画書に従って、データの収集を行う。得られたデータの分析は質的データ・量的データにより異なる。量的データは記述統計を行い、その後目的を明らかにできる統計手法を用いて、分析し結果を整理する。結果から仮説の検証と解釈を行う。質的データは事実の記述・説明、具体例の提示、関係性の理論、理論の発見について、これまでなかった新知見を理論的な手段で整理しまとめる。 在宅看護の研究はいずれのテーマであっても在宅ケアの利用者と家族のケアの質保証を重視する。そのために看護の評価研究を含め、必要に応じて介入研究を行う。研究手法には、主に看護の実践例の調査研究を主体としてRCTやコホート研究を含む。事例分析・介入によるアウトカム分析などである。 ①終末期ケア ②要介護高齢者の自立支援 ③アセスメントとアウトカム評価 ④在宅ケアのリスク要因の予防とケア方法 ⑤心身症状の発生予防とケア ⑥ケアマネジメント ⑦サービスの組織化 ⑧病院から在宅ケアの移行支援 ⑨ケアシステム評価 ⑩在宅ケアの質管理 ⑪費用対効果 地域住民の喫煙、乳幼児虐待、神経難病、認知症、要介護高齢者の重度化予防などのケアと施策等制度のあり方等について、記述統計、多変量解析などを用いてデータの解析を行い、ケアのあり方や地域への提言を行う方向で研究指導を行う。 「児童・思春期精神看護に関する研究」に関する研究を指導する。それらの看護の質の向上やシステムの構築・看護ケア技術の開発に寄与できるような、研究の課題の答えを導き出せる質的研究のアプローチを用いた質的研究が実施できるよう指導する。Ⅱでは、フィールドにおいて、質的データを収集し、総合的多角的にデータを分析、解釈し、新しい概念やケア技術の開発ができるような論文になる内容を指導する。	
留意事項	
研究の推進、データの収集・分析、データ分析、解釈、発表などに積極的に取り組む。	
教材	
適宜、必要に応じて示す。	
授業計画（30回）	
1-2 特別研究Ⅰの研究計画について、研究倫理審査委員会の承認を得て、研究計画に沿って研究の実施準備 3-6 研究の精度を保つ方法でデータを収集 7-11 効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果について信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化 12-16 研究結果に基づいて、論文（副論文を含む）について適切な考察（結論を含む場合がある）を	

導き論理的にまとめ 17-20 研究目的から考察（結論を含む場合がある）までの論旨一貫性 を検討 21-22「発表会Ⅱ（博士論文中間）」において適切な準備の上で発表・討論 23-25 論文の発表会の意見・討論に基づいて論文の修正 26-27 研究成果を国内・国際学会において発表の準備 28-30 副論文を学術誌に投稿準備				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価する A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
・ 研究計画に沿って精度を保つ方法でデータが収集できる。				
・ 適切なデータ分析方法によって研究結果の信頼性と妥当性を検討できる。				
・ 分析に基づいて研究目的から結果・考察を適切に導くことができる。				
・ 博士論文中間発表会で発表し、質疑に適切に対応できる。				
・ 研究したものを国際学会において発表する準備ができる。				
・ 副論文を学術誌に投稿する準備を進めることができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DE9203	広域看護学特別研究Ⅱ	2年/通年	2単位
担当教員		課程	
西川まり子		博士後期課程	

授業計画詳細
授業目的 目的は在宅看護学、地域看護学、国際保健看護学、精神看護学の領域を広域看護学分野としている。看護の対象となる人々のQOLの向上を目指して、社会情勢の急激な変化から生じる顕在化した健康課題や潜在する健康課題を解決するために、研究を用いて解決の方法を見出すことにある。最初の段階である課題を明確にすること、さらに研究目的、方法（対象と調査方法）を明確にし、ケースコントロール研究、コホート研究などのよりエビデンス水準の高い研究計画や複雑な現象を、厳密性を確保した方法で読み解き、ケアの質向上に寄与できる研究計画について教授する。倫理審査提出前に3名による審査合格、倫理審査提出、中間発表会Ⅰで発表をする。看護研究と実践の相互関係の発展を促進させる実践科学として学問的発展に貢献できる高度で活動的・創造的な自立した研究者・教育者をめざし、フィールドに出て対象者からデータの収集を行い、得られたデータを解析し、信頼性と妥当性を備えた結果解釈を行い、考察へと導く。さらに国際学会に発表をめざし、論文を学会誌に投稿するための準備ができる。 授業内容 特別研究Ⅰで作成した研究計画書に従って、データの収集を行う。得られたデータの分析は質的データ・量的データにより異なる。量的データは記述統計を行い、その後目的を明らかにできる統計手法を用いて、分析し結果を整理する。結果から仮説の検証と解釈を行う。質的データは事実の記述・説明、具体例の提示、関係性の理論、理論の発見について、これまでなかった新知見を理論的な手段で整理しまとめる。 国際保健看護の研究で、グローバル化に伴う、世界的な健康問題や国境を超えて移動している人々、来日外国人の健康問題、健康課題の研究指導を行う。海外での調査研究。新興・再興感染症、グローバル化に伴う国際的な感染症の拡がりなど、感染症に対する看護職者の役割は益々重要となっている。HIVなどの感染症に関する先行研究を多面的な視点から総括し、地域や医療の場面で必要とされる課題を解明する研究について、研究計画審査、倫理審査委員会承認を得て、研究を開始する。研究の成果を副論文として学術誌への投稿を目指し研究を進める。 （西川まり子） 留意事項 研究の推進、データの収集・分析、データ分析、解釈、発表などに積極的に取り組む。 教材 適宜、必要に応じて示す。 授業計画（30回） 1-2 特別研究Ⅰの研究計画について、研究倫理審査委員会の承認を得て、研究計画に沿って研究の実施準備 3-6 研究の精度を保つ方法でデータを収集 7-11 効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果について信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化 12-16 研究結果に基づいて、論文（副論文を含む）について適切な考察（結論を含む場合がある）を導き論理的にまとめ 17-20 研究目的から考察（結論を含む場合がある）までの論旨一貫性を検討 21-22「発表会Ⅱ（博士論文中間）」において適切な準備の上で発表・討論 23-25 論文の発表会の意見・討論に基づいて論文の修正 26-27 研究成果を国内・国際学会において発表の準備 28-30 副論文を学術誌に投稿準備

評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価する A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
・ 研究計画に沿って精度を保つ方法でデータが収集できる。				
・ 適切なデータ分析方法によって研究結果の信頼性と妥当性を検討できる。				
・ 分析に基づいて研究目的から結果・考察を適切に導くことができる。				
・ 倫理審査提出前に 3 名による審査に合格できる				
・ 倫理審査申請書の提出ができる				
・ 博士論文中間発表会 I で発表し、質疑に適切に対応できる。				
・ 研究したものを国際学会において発表する準備ができる。				
・ 副論文を学術誌に投稿する準備を進めることができる。(3 月末までをめざす)				

+授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DE9302	広域看護学特別研究ⅡⅢ	3年/通年	2単位
担当教員		課程	
巽あさみ		博士後	

授業計画詳細				
授業目的				
在宅看護学、地域看護学、国際保健看護学、精神看護学の領域を広域看護学分野としている。看護の対象となる人々のQOLの向上を目指して、社会情勢の急激な変化から生じる顕在化した健康課題や潜在する健康課題を解決するために、研究を用いて解決の方法を見出すことにある。得られた結果を、十分に吟味し、博士論文をまとめることができる。				
授業内容				
特別研究ⅡⅢの目的は、特別研究ⅡⅠと特別研究ⅡⅡで行ってきた研究結果を用いて研究枠組みの検証を行い、一般化への提言をまとめ、原著論文の作成を行う。国内外の発表と、原著論文の投稿をする。				
【指導教員の研究】				
(巽あさみ)				
子ども虐待防止、睡眠等保健指導、職場のメンタルヘルス、地域・職域連携等ケアと施策・制度について、質的帰納的研究、記述統計、多変量解析などを用いてケアのあり方や地域や職域への提言を行う方向で研究指導を行う。				
留意事項				
科学的知見に基づいた論文作成を行う				
教材				
・教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。				
・学会誌に原著論文として掲載される。				
授業計画 (30回)				
1～10 特別研究ⅡⅡの研究結果に基づいて、さらに研究結果を見直し適切な考察と結論を記述する				
11～14 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討する。				
15～17 看護における研究の意義について再考し、論文としてまとめる。				
18～20 発表会Ⅲ(博士論文中間)において適切な準備の上で発表と討論を行う。				
21～22 中間発表した論文の意見・評価に基づいて修正する。				
23～25 論文最終発表会において適切な発表と質疑ができる。				
26～27 期日までに論文を完成させる。				
29～30 論文の審査において説明と質疑に適切に対応できる。				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価する				
A(100～80点): 到達目標に達している(Very Good)				
B(79～70点): 到達目標に達しているが不十分な点がある(Good)				
C(69～60点): 到達目標の最低限は満たしている(Pass)				
D(60点未満): 到達目標の最低限を満たしていない(Failure)				
到達目標	A	B	C	D
・博士論文の目的から結論まで論旨一貫性のある論文を作成できる。				

・ 博士論文は独創性・新規性・社会的価値が含まれている。				
・ 博士論文最終発表会で発表し、質疑に適切に対応できる。				
・ 広域看護学分野における各看護学領域の国際動向に位置づけて研究できる				
・ 博士論文はおおむね原著論文水準の質で作成できる。				
・ 論文の審査において説明と質疑に適切に対応できる。				
・ 博士論文としてまとめることができる。				

+授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DE9304	広域看護学特別研究ⅡⅢ	3年/通年	2単位
担当教員		課程	
藤原奈佳子		博士後	

授業計画詳細
授業目的 在宅看護学、地域看護学、国際保健看護学、精神看護学の領域を広域看護学分野としている。看護の対象となる人々のQOLの向上を目指して、社会情勢の急激な変化から生じる顕在化した健康課題や潜在する健康課題を解決するために、研究を用いて解決の方法を見出すことにある。得られた結果を、十分に吟味し、博士論文をまとめることができる。 授業内容 特別研究ⅡⅢの目的は、特別研究ⅡⅠと特別研究ⅡⅡで行ってきた研究結果を用いて研究枠組みの検証を行い、一般化への提言をまとめ、原著論文の作成を行う。国内外の発表と、原著論文の投稿をする。 【指導教員の研究】 在宅看護の研究はいずれのテーマであっても在宅ケアの利用者と家族のケアの質保証を重視する。そのために看護の評価研究を含め、必要に応じて介入研究を行う。研究手法には、主に看護の実践例の調査研究を主体としてRCTやコホート研究を含む。事例分析・介入によるアウトカム分析などである。 ① 終末期ケア ② 要介護高齢者の自立支援 ③ アセスメントとアウトカム評価 ④ 在宅ケアのリスク要因の予防とケア方法 ⑤ 心身症状の発生予防とケア ⑥ ケアマネジメント ⑦ サービスの組織化 ⑧ 病院から在宅ケアの移行支援 ⑨ ケアシステム評価 ⑩ 在宅ケアの質管理 ⑪ 費用対効果 地域住民の喫煙、乳幼児虐待、神経難病、認知症、要介護高齢者の重度化予防などのケアと施策等制度のあり方等について、記述統計、多変量解析などを用いてデータの解析を行い、ケアのあり方や地域への提言を行う方向で研究指導を行う。 「児童・思春期精神看護に関する研究」に関する研究を指導する。それらの看護の質の向上やシステムの構築・看護ケア技術の開発に寄与できるような、研究の課題の答えを導き出せる質的研究のアプローチを用いた質的研究が実施できるよう指導する。ⅡⅢでは、新しい概念やケア技術の開発の内容の博士論文の作成と発表ができるよう指導する。また研究成果の公表に向けて指導する。 留意事項 科学的知見に基づいた論文作成を行う 教材 ・教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。 ・学会誌に原著論文として掲載される。 授業計画（30回） 1～10 特別研究ⅡⅡの研究結果に基づいて、さらに研究結果を見直し適切な考察と結論を記述する 11～14 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討する。 15～17 看護における研究の意義について再考し、論文としてまとめる。 18～20 発表会Ⅲ（博士論文中間）において適切な準備の上で発表と討論を行う。 21～22 中間発表した論文の意見・評価に基づいて修正する。 23～25 論文最終発表会において適切な発表と質疑ができる。 26～27 期日までに論文を完成させる。 29～30 論文の審査において説明と質疑に適切に対応できる。 評価基準 科目の到達目標の到達度により評価する

- A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)
- B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
- C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
・ 博士論文の目的から結論まで論旨一貫性のある論文を作成できる。				
・ 博士論文は独創性・新規性・社会的価値が含まれている。				
・ 博士論文最終発表会で発表し、質疑に適切に対応できる。				
・ 広域看護学分野における各看護学領域の国際動向に位置づけて研究できる				
・ 博士論文はおおむね原著論文水準の質で作成できる。				
・ 論文の審査において説明と質疑に適切に対応できる。				
・ 博士論文としてまとめることができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MA0101	看護学研究法特論 M	1 年/前期	2
担当教員		課程	
西川まり子 藤原奈佳子 倉田節子		博士前期課程	

授業計画詳細
授業目的 研究の基本的なデザインを学び、自立した実践リーダー・管理者・教育者になるために看護の実践や教育の場において専門的な知識・技術の向上、ケアプログラムやケアシステムの改善・開発など実践的研究活動が行われるようにする。国内外の文献で、先行研究のレビューをして、研究の新規性・独創性・社会的価値を考慮した研究テーマと研究目的に合致する研究デザインを選択する。 研究の方法として疫学的手法を取り入れた量的研究法、質的研究法、実験的研究法、Mix method法を学び研究の進め方、研究デザインの組み立て方、倫理的配慮と申請方法、データの収集方法、考察、結論の書き方を含めて研究プロセスにおける研究の質管理方法、研究論文作成方法について学修する。 授業内容 研究テーマ・研究目的について社会的ニーズの分析・研究の新規性・独創性・社会的価値・研究倫理を検討する。 研究計画書の作成において文献検索（英論文・和論文）や研究デザインの検討を行う。具体的な研究方法の選択、その適切性と妥当性を検討する。適切な研究データ収集法、研究スケジュールを含めて研究の実施計画、研究過程における研究の量や質を高めるためにデータの管理と解析方法を検討し、具体的で実行可能な研究計画書作成の準備をする。研究計画発表会に向けて、研究倫理を踏まえた研究計画を検討することができる。 （オムニバス方式／15回 西川まり子8回：藤原奈佳子7回：倉田節子2回） 看護研究の目的、特徴、新規性・独創性・社会的価値を考慮した研究の進め方（倉田/2回） クオリティーの高い文献検索の実際と管理（特に和論文）、研究のタイムスケジュールの立て方 文献検索の実際と管理（英語語論文）、文献管理ソフトの実際、クオリティーの高い論文誌の選択（特に英文誌）（西川/1回） 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な量的研究法の基本（1）：研究デザインの選択（西川/5回） 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な量的研究法の基礎（2） 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な量的研究法の基礎（3） 看護の知識・技術の向上・開発をめざす介入研究法 研究の質管理としての研究の信頼性・妥当性・一貫性を高める方法の基礎（1） 看護の知識・技術の向上・開発をめざす介入研究法 研究の質管理としての研究の信頼性・妥当性・一貫性を高める方法の基礎（2） 介入研究の登録の意義と実際の方法 科学者としての研究倫理 と 研究倫理審査申請書作成（藤原/1回） 文献クリティークの基礎（1）：質的研究法を含む（藤原/3回） 文献クリティークの基礎（2）：量的研究法を含む 文献クリティークの基礎（3）：実験的研究法を含む 文献クリティークの基礎（4）：混合研究法を含む（西川/1回） 研究結果・考察・結論の示し方、論文作成のポイント、論文発表と留意点（藤原/2回） 留意事項 1. 科学文献などから情報収集と分析、論理的な文章化が求められる。 2. レポートなどの提出物は期日ごとに提出する。 3. 授業への出席率と授業毎の復習、研究への積極的な取り組み、行動力が求められる。 教材

1. 学生は自己の研究課題に関連した参考文献は自身で検索する。 2. 教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。				
授業計画（15回）				
1 看護研究の目的、特徴、新規性・独創性・社会的価値を考慮した研究の進め方（倉田） 2 クオリティーの高い文献検索の実際と管理（特に和論文）、 研究のタイムスケジュールの立て方（倉田） 3 文献検索の実際と管理（英語語論文）、文献管理ソフトの実際、クオリティーの高い論文誌の選択 （特に英文誌）、（西川） 4 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な量的研究法の基本（1）：研究デザインの選択（西川） 5 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な量的研究法の基礎（2）（西川） 6 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な量的研究法の基礎（3）（西川） 7 看護の知識・技術の向上・開発をめざす介入研究法 研究の質管理としての研究の信頼性・ 妥当性・一貫性を高める方法の基礎（1）（西川） 8 看護の知識・技術の向上・開発をめざす介入研究法 研究の質管理としての研究の信頼性・ 妥当性・一貫性を高める方法の基礎（2） 介入研究の登録の意義と実際の方法（西川） 9 科学者としての研究倫理 と 研究倫理審査申請書作成（藤原） 10 文献クリティークの基礎（1）：質的研究法を含む（藤原） 11 文献クリティークの基礎（2）：量的研究法を含む（藤原） 12 文献クリティークの基礎（3）：実験的研究法を含む（藤原） 13 文献クリティークの基礎（4）：混合研究法を含む（西川） 14 研究結果・考察・結論の示し方、論文作成のポイント、論文発表と留意点（藤原） 15 研究結果・考察・結論の示し方、論文作成のポイント、論文発表と留意点（藤原）				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価 A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 基本的な研究のデザインを学ぶことができる。				
2. 研究の課題について国内外の先行研究をレビューし、新規性・独創性・社会的価値のある研究デザインを検討することができる。				
3. 自身の論文作成に結び付けて、倫理的配慮を踏まえた計画書作成の準備ができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MA0201	疫学統計学M I （必修）	1 年/前期	2 単位
担当教員		課程	
箕浦 哲嗣		博士前期課程	

授業計画詳細
授業目的 パソコンの発達・普及とともに、保健師や看護師が自ら収集したデータを簡単に分析できるようになりました。しかしながら統計学を学んでいなければ、分析方法の選定や分析結果の解釈は不可能であり、最悪の場合には、間違った結論を導いてしまう危険さがあります。 医療、看護および保健の分野で必須である統計学について、量的研究の論文を読解できるようになることを目的に、記述統計および推測統計を理解してもらいます。また、医療分野で多く使われている多変量解析に関しても、一部を教授します。
授業内容 本講義は記述統計だけでなく、推測統計の基本である母平均・母比率の推定、平均値の差の検定および比率の差の検定、さらに重回帰分析に始まる多変量解析の初歩までを範囲として、実際に Excel、SPSS あるいは EZR を用いて計算しながら理解を深めます。
評価方法 課題レポート 70% 講義に対するアクティビティ 30%
留意事項 1. 授業に積極的に参加する 2. 授業内容について事前に情報を収集し、必要に応じて分析を試みる 3. 授業内容を自己の研究の計画立案や実践に反映させる
教材 事前に授業支援 CMS よりプリントを配布するので、印刷して参加すること。
授業計画 (15 回) 第1回 統計学の基本的概念（保健統計の必要性、データの種類） 第2回 記述的解析（度数分布、特性値、散布度、質的データの記述的解析） 第3回 記述的解析（グラフの作成、統計的推論の準備）と論文上の標記の解釈 第4回 分布（色々な分布、確率分布、正規分布の基礎） 第5回 統計的推論（母集団平均の点推定と区間推定、割合の推定） 第6回 統計的推論（割合の推定）、仮説検定の考え方 第7回 平均値の差の検定（母集団と標本とのつの比較） 第8回 平均値の差の検定（2つの母集団の平均値の差の検定） 第9回 分散分析法、ノンパラメトリック検定 第10回 比率の差の検定（分割表による検定、カイ二乗検定） 第11回 相関と回帰、母相関検定 第12回 各種検定の演習 第13回 重回帰分析とは

第14回 EZR による記述統計の算出、各種検定、重回帰分析およびロジスティック回帰分析
第15回 まとめ

評価基準

- A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
保健医療データを統計分析する上で基本となる分布や基本統計量についての理解				
基本的な検定の考え方についての理解				
相関係数と母相関検定の考え方の理解				
多変量解析の初歩についての理解				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MA0301	疫学統計学MⅡ（選択）	1 年/後期	2 単位
担当教員		課程	
箕浦 哲嗣		博士前期課程	

授業計画詳細				
授業目的				
結果には原因がありますが、実際の現象では原因と結果が一对一に対応しているような単純な例はほとんどありません。様々な要因が重なり合って、一つの事柄を説明しているのが現実です。本講義では、重回帰分析や因子分析をはじめとする各種多変量解析法を用いて、複雑に絡み合った物事を分かり易く理解する技術および証明する技術を習得することを目標とします。				
授業内容				
多変量解析（重回帰分析、ロジスティック回帰分析、主成分分析、因子分析、パス解析）を中心とした統計解析法を演習形式で講義します。SPSS が使えない場合は互換アプリケーションを使用します。				
評価方法				
課題レポート 70% 講義に対するアクティビティ 30%				
留意事項				
1. 授業に積極的に参加する 2. 授業内容について事前に情報を収集し、必要に応じて分析を試みる 3. 授業内容を自己の研究の計画立案や実践に反映させる				
教材				
事前に授業支援 CMS よりプリントを配布するので、印刷して参加すること。				
授業計画 (15 回)				
第 1 回 実際のデータに対するクリーニング方法、高機能テキストエディタの使い方 第 2 回 SPSS の使い方（ケースの選択、値の再割り当て等） 第 3 回 SPSS での独立サンプルの平均値の差の検定、対応サンプルの平均値の差の検定 第 4 回 SPSS での一元配置分散分析と多重比較 第 5 回 SPSS での相関係数の算出と分析、気を付けるべき点 第 6 回 SPSS でのクロス集計とカイニ乗検定、イエーツの連続補正、Fisher の直接確率法 第 7 回 重回帰分析 第 8 回 数量化理論Ⅰ類、ダミー変数の作り方と注意点 第 9 回 ロジスティック回帰分析 第 10 回 主成分分析 第 11 回 探索的因子分析 第 12 回 確証的因子分析と既存の尺度 第 13 回 共分散構造分析の基礎 第 14 回 EZR を使った各種分析と必要サンプル数の算出 第 15 回 効果量や検出力などの最近重要視されているパラメータの意味				
評価基準				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
データを分析に適した形に加工出来る				
高機能統計ソフトウェアの仕組みを理解する				
算出される数値を適切に理解し、意味を述べる事が出来る				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MA0401	看護理論特論M	1 年／前期	2
担当教員		課程	
小笠原知枝		博士前期課程	

授業計画詳細			
授業目的			
看護理論の変遷とさまざまな理論の構造と特徴及び限界について知識を深めるとともに、看護理論の活用方法を探求して、各看護専門領域の実践・教育・研究に不可欠な論理的な思考能力を高めることを目標とする。			
授業内容			
看護理論の変遷と諸理論の特徴及び限界について知識を深めるとともに、各看護専門領域の実践・教育・研究に不可欠な批判的思考能力を高めることを目標とする。授業科目の内容には、理論の定義とその生成過程、理論の変遷、看護大理論（発達モデル、ニード論、相互作用モデル、システムモデル、ケアリングモデル、文化人類学的看護論等）の特徴、実践の基盤となる中小範囲理論（患者の理解と援助のための発達理論・ニード論・ストレス・コーピング理論、危機介入モデル、ソーシャルサポート・システム論、症状マネジメントモデル等）、理論およびEBNの検索、理論開発の意義、などを含む。			
留意事項			
1. 授業に積極的参加を期待する。 2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。 3. 自己の実践力強化と研究計画に反映させる。			
教材			
1. 松木光子・小笠原知枝・久米弥寿子編（2009）．看護理論と実践のリンケージ，ヌーヴェルヒロカワ． 2. Tomey, A. M. (ed.) (1994／1995)．都留伸子（監訳），看護理論家とその業績 第2版．医学書院． 3. George, J. B. (ed.) (1993／2003)．南裕子，野嶋佐由美，近藤房江（訳），看護理論集．日本看護協会出版会． 4. 野川道子編著（2014）．看護実践に活かす中範囲理論．メヂカルフレンド社			
授業計画（15回）			
1. 看護理論活用の意義 2. 理論の定義と用語の理解 3. 看護理論の生成過程 4-5. 看護理論の変遷 6-8. 看護大理論の構造と特徴： 発達モデル、ニード論、相互作用モデル、システムモデル、ケアリングモデル、文化人類学的看護論等 9. 看護理論（大理論）に関する課題の発表と討議 10-12. 実践の基盤となる中小範囲理論の構造と特徴： 発達理論、ニード論、ストレス・コーピング理論、危機介入モデル、ソーシャルサポート・システム論、症状マネジメントモデル 13. 看護過程と看護診断分類・看護介入分類・看護成果分類 14. 看護理論（中範囲理論）に関する課題の発表と討議 15. まとめと課題（小笠原知恵／15回）			
評価基準			
1. 授業中の質疑・討議 30% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 40%			

- A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)
- B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
- C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 看護専門領域における看護の実践や研究の基礎となる看護理論や看護モデルを理解し、その特徴と限界について説明できる。				
2. 看護の具体的な実践の基盤となる中範囲理論の特徴を理解し、具体的な場面でどのように活用できるのかについて検討できる。				
3. 看護実践と看護理論と看護研究との相互の関連性について考察し、看護理論の意義と開発の必要性を検討できる。				
4. 特定の看護理論を用いて、具体的な事例の看護過程に適用して、その長所・短所を分析できる。				
5. 看護理論が看護実践と看護研究にどのように貢献するのかについて説明できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MA0501	看護教育学特論M共通	1 年／後期	2
担当教員		課 程	
小笠原知枝		博士前期課程	

授業計画詳細				
授業目的				
看護者としての倫理的態度を持って、看護実践における教育的機能を効果的に果たすために、教育心理学・教育学、看護教育学の基礎的知識を基盤とした看護実践能力とその資質を養う。				
授業内容				
看護実践・教育における教育的機能を、看護者としての倫理的態度を持って効果的に果たすために、教育心理学・教育学の基礎的知識を基盤とした能力・資質を養うことを目標とする。授業科目の内容は、教授・学習過程における学習理論、教育指導の方法論、教育評価、臨地実習指導方法、カウンセリング技法などについて教授するとともに、クライアント及び家族に対する介入指導計画の立案から評価に至るプロセスなどを含むものとする。				
留意事項				
1. 授業に積極的参加を期待する。 2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。 3. 自己の実践力強化と研究計画に反映させる。				
教材				
随時紹介				
授業計画（15回）				
1 看護教育の現状と課題（現行看護学カリキュラムの特徴を含む） 2-3 教授・学習過程における基礎知識と学習理論 4 体験学習理論 5. 教育指導の方法論 6-7 対人関係を支えるカウンセリング技法と演習法 8 グループダイナミクスを支えるリーダーシップ理論 9 実習環境と実習評価 10 教育評価 11-12 クライアントや家族に対する教育指導計画：クライアント理解のための諸理論、アセスメント、立案、評価を含む 13 各自教育指導計画案の作成：対象者のセルフケア能力や看護学生のコミュニケーション能力などを高めるための教育指導計画案の作成 14 上記の各自が作成した教育指導計画案の発表と討議 15 まとめと課題について討議				
(小笠原知枝／15 回)				
評価基準				
1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30% A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. わが国の看護教育制度の歴史的発展にみられる特徴を理解し、現行大学のカリキュラムの課題をクリティックできる。				
2. 教授・学習過程における基礎的知識を理解し、体験学習理論の特徴について説明				

できる。				
3. 教育評価の基礎知識を理解し、実習評価時の留意事項について述べるができる。				
4. 看護学生の気質と特徴を理解し、対象に合わせた看護ケア技術教育の指導法および看護者としての倫理的態度の教育法について考察し、討議することができる				
5. 看護学生の実習環境に関する課題を挙げ、その対策について検討できる。				

授 業 コー ド	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MA0601	看護倫理特論 M	1 年/前期	2
担当教員		課 程	
伊藤千晴		博士前期課程	

授業計画詳細			
授業目的			
1) 看護倫理の意義と歴史的な変遷を土台として、看護倫理の歴史的発展を理解する。 2) 看護者の倫理綱領およびサラ T フライの倫理原則について内容を理解する。 3) 倫理的課題の解決に向けて、基盤となる諸理論・諸概念を理解する。 4) 倫理的課題に対する解決に向けた方法を理解する。 5) 倫理的課題に対して、組織がどのような対策・取り組みを行う必要があるのかを理解する。			
授業内容			
看護倫理の意義や目的を理解し、現代の医療現場で遭遇する倫理的課題を探究する。また解決に向けて方法論を理解し、対応策を導き出す。さらに最近の看護倫理の研究動向を知り、議論することで省察する。(全 15 回)			
留意事項			
1. 授業に主体的に参加することを期待する。 2. 授業の課題について積極的に取り組む。			
教材			
その都度必要な資料は配布する <参考書> ①臨床倫理学 赤林朗、蔵田伸雄、児玉聡、新興医学出版社 ②看護倫理 南江堂 ③看護者の倫理綱領 日本看護協会出版会			
授業計画 (15 回)			
1. 感性と倫理・看護倫理の意義と目的・看護倫理教育の歴史・倫理的問題とジレンマ 2. 看護者の倫理綱領とサラ T フライの倫理原則 3. 患者の権利とインフォームドコンセント 4. 終末期医療における倫理的課題 5. 倫理的問題の解決方法・ナラティブアプローチ 6. 臨床倫理の 4 分割法を用いた事例展開 7. 4 ステップモデルを用いた事例展開 8. 事例（臨床経験から倫理問題を提起し、解決へ導く） 9. 事例（臨床経験から倫理問題を提起し、解決へ導く） 10. 事例（臨床経験から倫理問題を提起し、解決へ導く） 11. 発表 12. 発表 13. 臨床での看護倫理教育の進め方・組織としての取り組み 14. 看護倫理に関する最近の研究動向 15. 看護倫理に関する最近の研究動向 まとめ			

評価基準				
1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30% A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 看護倫理の意義と目的を理解する。				
2. 倫理的課題の解決に向けた基礎的知識を理解する。				
3. 倫理的課題の解決に向けて基盤となる諸理論・諸概念を理解し討議する。				
4. 組織としての対策・取り組みについて理解する。				
5. 自身の倫理的価値観を省察できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MA0701	看護管理特論M	1 年/後期	2 単位
担当教員		課 程	
藤原奈佳子		博士前期課程	

授業計画詳細			
授業目的			
職場（病院）組織で良質な看護サービスを提供するために、職場内の看護組織、看護チームの運営や組織力の強化に必要な知識・技術を学ぶ。			
授業内容			
医療現場で良質な看護サービスを提供するためには、看護組織、看護チームを構成する個々の看護職員が役割を認識し、円滑に看護実践を遂行することが求められている。本科目では、看護管理者として、看護組織力を強化し、効果的・効率的な看護ケアが実践できる知識・技術の修得をめざす。このために、看護管理に関する知識と諸理論を基盤とする科学的思考力を学び、組織的に問題を解決する方法を修得する。			
留意事項			
授業内容について自己の課題と照合させ、事前に関連文献等に目を通しておき、授業中は積極的に討論ができる準備をしておくこと。プレゼンテーションは、テーマの理論概説、先行研究や既存資料の観察などを通じた現状分析、自身の体験事例などを統合させて、改善策の提言、看護実践への応用などを含む。討議内容をふまえて課題レポートを作成する。 なお、本科目の単位修得には、授業時間以外に文献研究、発表時間等、およそ授業時間の 3 倍程度の自己学修を要します。			
教材			
必要文献は、必要に応じて提示する。 （参考書） ・ スティーブン P. ロビンス著、高木晴夫訳：組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社、2009 年 ・ 中西睦子編集：看護サービス管理、第 3 巻、医学書院、2007 年 ・ 井部俊子監修、増野園恵編集：看護管理学習テキスト、第 3 版 第 1 巻 ヘルスケアシステム論 2019 年版、日本看護協会出版会、定価 2,592 円 ・ 井部俊子監修、秋山智弥編集：看護管理学習テキスト 第 3 版 第 2 巻 看護サービスの質管理 2019 年版、日本看護協会出版会、定価 4,320 円 ・ 井部俊子監修、手島恵編集：看護管理学習テキスト 第 3 版 第 3 巻 人材管理論 2019 年版、日本看護協会出版会、定価 4,212 円 ・ 井部俊子監修、勝原裕美子編集：看護管理学習テキスト 第 3 版 第 4 巻 組織管理論 2019 年版、日本看護協会出版会、定価 3,672 円 ・ 井部俊子監修、金井 Pak 雅子編集：看護管理学習テキスト 第 3 版 第 5 巻 経営資源管理論 2019 年版、日本看護協会出版会、定価 3,780 円 ・ 井部俊子監修、増野園恵編集：看護管理学習テキスト 第 3 版 別巻 看護管理基本資料集 2019 年版、日本看護協会出版会、定価 4,536 円			
授業計画 （15 回）			
1. 病院の看護管理の国内外の動向分析（2 回） 病院看護管理システムの国内外文献の検討から、看護管理の概念と歴史的背景、看護管理の機能について概観 2. 組織論と組織分析（2 回） 1) 組織論、組織の構造、集団の機能、医療・保健サービス提供組織、専門職組織 2) 自施設または提示組織の組織分析（SWOT 分析）を実施し、組織の改善策を検討 3. 看護専門職としての人的資源活用（2 回）			

- 1) 組織行動論、人間行動学的理論をふまえたアプローチによる効果的な人的資源の活用方法
- 2) 専門職とはどうあるべきかを探求し、キャリアに関する理論をととして自己のキャリア発達と組織におけるキャリア開発のしくみを理解
4. 看護サービスの提供（4回）
 - 1) 看護サービスの基本的概念と、看護サービスの提供過程のとらえ方
 - 2) 看護実践における倫理的問題の把握と意思決定や現場でおこる問題の解決手順を理解し、適切な解決策を検討
 - 3) 看護サービスの質管理

質評価の枠組みを学び、提供される看護サービスの安全管理方法、医療・看護サービスの質の評価方法
5. 看護実践におけるリーダーシップ（3回）
 - 1) 集団力学（グループダイナミクス）の機能、看護チームにおけるリーダーの役割、医療チームにおける看護の役割
 - 2) 看護実践の質を改善するための交渉や組織変革実践のプロセスについて変革理論を含めた理解
 - 3) 看護組織内において、効果的な教育、研修の企画
6. 労務管理（1回）

労働に関する法規を学び、看護職として心身ともに健康で働くことができるための組織支援の理解
7. 看護をとりまく社会情勢（1回）

看護に関連する法律や制度の変遷をふまえた近年の社会情勢とその看護政策が職場に及ぼす影響

（藤原奈佳子／15回）

評価基準

1. 授業への参加状況 30% 2. プレゼンテーション 35% 3. 課題レポート 35%

A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)

B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 看護管理に関する知識と諸理論を修得し、科学的思考力をもつ看護実践現場のリーダーとして組織力の強化に必要な知識・技術が理解できる。				
2. 看護専門職の役割と機能を認識し、看護現場でおこる問題の解決手順を理解し適切な解決策の検討ができる。				
3. 授業内容を含めて先行研究や既存資料の観察などを通した看護領域における現状分析、自身の体験事例などを統合させて、論点を伝えることができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MA0801	看護政策特論M	1 年/後期	2 単位
担当教員		課 程	
藤原奈佳子		博士前期課程	

授業計画詳細	
授業目的	
1) 政策と政策決定プロセスに関する基本的な構造を理解できる。 2) 看護の質向上のために、制度改革や法改正を含む政策的な働きかけや専門領域における看護政策の具体的課題にとりくむことができる。	
授業内容	
特に看護制度と関連する政策課題について看護行政における政策活動や政策的な働きかけの方法、看護サービスに関する将来設計、看護職の政策的役割を探究する。看護の質向上と関係する社会保障のしくみや医療制度、医療保険制度、介護保険制度、診療報酬制度、医療法、保健師助産師看護師法などの法的基盤を理解し、看護の質向上のための課題を明確にし、その課題に効果的に取り組む政策決定のプロセス、看護行政における政策活動などの方策を提言できる力を涵養する。	
留意事項	
授業内容について自己の課題と照合させ、事前に関連文献等に目を通しておき、授業中は積極的に討論ができる準備をしておくこと。 なお、本科目の単位修得には、授業時間以外に文献研究、発表時間等、およそ授業時間の 3 倍程度の自己学修を要します。	
教材	
必要文献は都度提示する。 (参考書) 見藤隆子他：看護職者のための政策過程入門、2007 年、定価 1,944 円 井部俊子監修、増野園恵編：看護管理学習テキスト、第 3 版 第 1 巻 ヘルスケアシステム論 2019 年版、日本看護協会出版会、定価 2,592 円	
授業計画 (15 回)	
1-2 政策決定の過程と政策提言活動 (2 回) わが国の立法行政について閣法、議員立法を確認し、法律案の成立過程、政策決定のプロセスが理解できる。看護政策について具体的な政策決定プロセスが理解できる。 3-4 社会保障の概念 (2 回) わが国の社会保障制度の軌跡を確認し、現在の課題と将来の福祉ビジョンについて理解できる。また、OECD ヘルスデータなどから社会保障に関して国際比較について検討することができる。 5-6 社会保障と資源 (2 回) わが国の予算における社会保障関係費用の推移から社会保障に必要な費用やマンパワーについて現状の課題が理解できる。 7-8 保健医療福祉制度とヘルスケアシステム (2 回) 保健・医療・福祉の主要な法律を概観し、これらの法律の基盤にたつヘルスケアシステムと現状の課題が理解できる。 9-10 看護制度と看護マンパワー (2 回) 保健師助産師看護師法の改正過程を検証し、看護基礎教育の向上と看護専門職としてのあり方を考察することができる。看護師等の人材確保の促進に関する法律を確認し、看護職員需給見通し、看護職員確保対策が理解できる 11-12 医療施策と看護政策 (2 回) 国民のヘルスニーズと医療法改正を理解し、現状における政策課題が見いだせる。	

13-15 プレゼンテーション（3回） これまでの看護政策論の学びの中から看護の質向上のための課題を明確にし、その課題に効果的に取り組む政策決定のプロセス、看護行政における政策活動などの方策を提言する。 （藤原奈佳子／15回）				
評価基準				
1. 授業への参加状況 30% 2. プレゼンテーション 35% 3. 課題レポート 35% A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 保健・医療・福祉の主要な法律を概観し、これらの法律の基盤にたつヘルスケアシステムと現状の課題を理解し、看護政策について具体的な政策決定プロセスが理解できる。				
2. 国内外の社会保障制度の軌跡を確認し、現在の課題と将来の福祉ビジョンについて検討することができる。				
3. 社会保障に必要な費用やマンパワー、現状の課題を理解し看護職員需給見通し、看護職員確保対策について考察できる。				
4. 国民のヘルスニーズと医療法改正を理解し、現状における政策課題が見いだせる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MA0901	国際保健看護学特論M共通	1 / 後期	2 単位
担当教員		課程	
西川 まり子		博士前期	

授業計画詳細
授業目的 グローバル化の中で、国際的な視点に立って、ヘルス、医療や看護を学ぶ。そのために（１）世界の看護、看護師の移動に対して、より深くポイントを絞って学ぶ。（２）世界の看護の動向、グローバルヘルスとその問題点、（３）世界の保健部門をサポートする国連を含む国際組織やNGOの活動を理解する。そのうえで、保健医療の重要な担い手として、国際社会におけるアドボカシーについて、自分の意見を持つことができるようにする。 授業内容 国際的な視点を踏まえた内容がそれぞれの研究の中に評価される形で組み込まれるように学ぶ。さらに、将来、国際社会において国内外でヘルスの分野で活躍する基礎を学ぶ。授業は、初心者にも理解しやすいように、世界のエリアを地図上で世界を旅しながら、国際保健看護の専門的な知識を学ぶ。内容は、まず、（１）世界の看護師の移動として、看護師の国境を越えた移動状況（メリーゴーランド）、利点、問題点をアメリカ、日本、イスラム圏（ほとんどの看護師が外国人）を中心に深めて学ぶ。（２）世界の看護の動向として授業計画の①～⑧に示すように北米、南米、オーストラリア、ヨーロッパ、ロシア、アジア、アフリカ、中東から国を選び、そのヘルス、医療と看護の特徴を深める。（３）グローバルヘルスとその問題点、世界の保健部門をサポートする国連を含む国際組織やNGO。そのうえで、保健医療の重要な担い手として、国際社会におけるアドボカシーについて、自分の意見を持つことができる。国際的にみて日本の看護の特徴、日本の看護が国際社会に与える影響、役割、国際貢献として果たすべき役割について考究する。DVD により視覚的に教授しながら、レポートを作成して討論により、具体的に修得できるようにする。 留意事項 学生には積極的に質疑・討論に参加することを期待する 教材 日本国際保健医療学会編『国際保健医療学 第3版』杏林書院(2013) ISBN978-4-7644 ¥3200 UNICEF『世界子供白書』最新版¥240、UNICEF『基礎リーフレット』最新版, ¥10 <資料> デイヴィッド ワーナー, 若井 晋(翻訳)『いのち・開発・NGO』1998, 新評論 ISBN13:978-4794804228 ¥3990 西川まり子『目で見る国際看護』DVD I, II, III, 医学映像教育センター ¥29400 X3 その他の論文資料は、適宜配布 授業計画 (15回) 1. 国際保健看護学の総論：国際保健看護学を深める理由。世界の看護師や医療者の移動（看護のメリーゴーランド）：看護師の国境を越えた移動状況、その利点と問題点 2. 世界の看護の動向①：アジアのヘルス、医療、看護 3. 世界の看護の動向②：オーストラリアのヘルス、医療、看護 4. 世界の看護の動向③：アメリカのヘルス、医療、看護 5. 世界の看護の動向④：カナダ、南アメリカのヘルス、医療、看護 6. 世界の看護の動向⑤：ヨーロッパのヘルス、医療、看護 7. 世界の看護の動向⑥：ロシアのヘルス、医療、看護

8. 世界の看護の動向⑦：アフリカのヘルス、医療、看護
9. 世界の看護の動向⑧：中東のヘルス
10. 保健や看護に関する国際機関や職能団体①：国際機関や国際的な職能団体の考え方、ICN
11. 保健や看護に関する国際機関②：UNICEF UNFPA WHO, 世界銀行
12. 国際機関で働くためのヒント：必要な事柄
13. 保健に関するNGO：国際的な動向、近隣での活動
14. プレゼンテーションのまとめ
15. まとめとプレゼンテーション・討論

評価基準

1) 講義内容のレポート作成 30% 2) テーマごとの発表・質疑・討論 30% 3) 国際保健看護に関することや国際保健看護の今後に向けての提言レポートと発表 40% A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
それぞれの研究の中での国際的な位置づけが理解できる				
グローバル化の中で、国境を越えた看護師の移動の意味、利点と欠点が理解できる				
世界の看護の動向：それぞれのセクションで学ぶ、ヘルス、医療、看護が理解でき、世界を総合的に、それぞれの特徴としてとらえることができる。				
世界のヘルス、保健、看護をサポートする国際機関、国際的な職能団体や NGO の役割を理解することができる				
国際機関で働くためのヒントを得ることができる				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MB2101	看護保健管理学特論M	1 年/前期	2 単位
担当教員		課 程	
藤原奈佳子		博士前期課程	

授業計画詳細	
授業目的	
院内から院外へとケアが継続する看護保健管理上の課題に対処するために、看護実践リーダーとして、他職種・他部門・他施設・地域などとの協働・連携の役割・方法および連携システムの構築の要件とその活用法を学ぶ。	
授業内容	
病院の機能分化がはじまり、急性期医療での在院日数は短縮される一方で、退院後も継続して在宅ケアができるように地域との連携を担保することが重要となっている。こうした社会情勢をふまえて看護の質向上をめざすためには、病院の臨床現場における看護管理のみならず、地域における多職種が協働しておこなわれる継続ケアを視野にいれた幅広い保健管理が求められている。 看護実践リーダーとして、院内の地域連携室（退院調整支援室）や外来、他職種との連携や地域における院外施設との連携の役割を学ぶ。 質の高い継続看護を実施するために、病棟から外来もしくは院外へと連携する際に、患者のニーズを適切にアセスメントし、かつ連携先の条件を分析する科学的思考力を身につけ、病院から地域・在宅へ移行するシステムの構築方法を修得する。	
留意事項	
各回のテーマに関する国内外論文を検索し、論文内容、研究方法について学習しておくこと。プレゼンテーションは、テーマの理論概説、先行研究や既存資料の観察などを通じた現状分析、自身の体験事例などを統合させて、改善策の提言、看護実践への応用などを含む。討議内容をふまえて課題レポートを作成する。 なお、本科目の単位修得には、授業時間以外に文献研究、発表時間等、およそ授業時間の 3 倍程度の自己学修を要します。	
教材	
必要文献は、必要に応じて提示する。 （参考書） ・石原ゆきえ他著：多職種協働事例で学ぶ退院支援・調整、日総研、2014 年 ・細田満和子：「チーム医療」とは何か、日本看護協会出版会、2012 年 ・田村由美：新しいチーム医療、看護の科学社、2012 年	
授業計画 （15回）	
1. 保健医療福祉制度に関する国内外動向と関連法規（2回） 保健医療福祉制度とヘルスケアサービス提供組織を規定する法律、特に医療法、社会保障制度改革推進法 2. 地域包括ケアシステムと看-看連携（3回） 具体的な地域における地域包括ケアシステムについて、院外施設との連携の方法について説明し、看-看連携における課題を見出し、その解決案の提示 3. チーム医療における看護職の役割（3回） 多職種で構成される院内のチーム医療における看護職の役割と院内における連携の効果的な運営や教育、協働の方法、他職種との調整方法 4. 院内から院外への連携（3回） 急性期病院での退院支援に関する効果的な方策、多職種ならびに関連施設との連携のあり方を検討し、院内から地域へと継続ケアを視野にいれた包括的な看護保健管理上の課題を検討 5. 院内外の連携における看護実践リーダーの役割（1回）	

看護実践リーダーとしての、院内の地域連携室（退院調整支援室）や外来、他部門、他職種との調整や地域の院外施設との連携方法

連携に際し、入院中の患者のニーズを適切にアセスメントし、連携先の（訪問看護ステーション・在宅支援診療所・高齢者ケア施設・医療機関など）の条件の分析など科学的思考力を養い、病院から地域・在宅へ移行するシステムの構築において看-看連携を中心とした課題を検討

6. 連携と患者情報（1回）

連携と患者情報について院内外で共有される退院サマリや看護記録などから抽出される患者情報について、電子カルテなどの取扱いに関する規則や医療情報管理に関する法律などを理解

7. 連携システムの構築のための要素・要件とその活用方法（2回）

患者の意向をふまえた療養生活を支援するツールの検討

（藤原奈佳子／15回）

評価基準

1. 授業への参加状況 30% 2. プレゼンテーション 35% 3. 課題レポート 35%

A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good)

B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 院内のチーム医療における看護職の役割を理解できる。				
2. 院内から院外への連携において、多職種ならびに関連施設との連携のあり方を検討できる。				
3. 院内外の多職種連携における看護実践リーダーの役割を理解し、患者のニーズを適切にアセスメントでき、看-看連携を中心とした課題を検討できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MB2201	看護保健管理学演習M	1 年/後期	2 単位
担当教員		課 程	
藤原奈佳子		博士前期課程	

授業計画詳細				
授業目的				
看護管理学領域に関連する課題を中心に、国内外の論文や図書などから情報を収集し、自己の研究課題を導く。				
授業内容				
論文講読は、研究デザインや研究方法の妥当性と信頼性、得られた結果の検討など批判的に精読する。文献検索法、文献整理など研究の基礎的な技術や情報収集能力を修得する。必要な研究方法については、専門書を輪読する。また、既存資料の利用に際して、分析方法、結果の解釈、課題の明確化へと発展させる能力を修得する。学生の関心に応じて先進的取り組みを行っている組織においてフィールドワークを行い、その結果を報告・討議し看護管理上の課題を検討する。 国内外の文献検索法を学び、文献の系統的整理ができる。 研究について「バーンズ&グローブ看護研究入門」を中心に購読し、研究計画作成に必要な知識について学習するとともに自己の課題について探究する。 既存資料の利用に際して、分析方法、結果の解釈、課題の明確化へと発展させることができるようにする。				
留意事項				
自己の研究課題を明確にするために、事前に自ら演習計画を立案するなど積極的な準備が必要である。 なお、本科目の単位修得には、授業時間以外に文献研究、発表時間等、およそ授業時間の 3 倍程度の自己学修を要します。				
教材				
必要文献は都度提示する。 書名：バーンズ&グローブ看護研究入門 著者名：Nancy Burns／Suzan K. Grove／監訳＝黒田裕子他、 出版社・出版年：エルゼビア・ジャパン；原著第 7 版・2015 年 価格：9,720 円				
授業計画 (30 回)				
1-6 国内外の文献検索法を学び、文献の系統的整理ができる。(6 回) 7-22 研究について「バーンズ&グローブ看護研究入門」を中心に購読し、研究計画作成に必要な知識について学習するとともに自己の課題について探究する。(16 回) 23-26 既存資料の利用に際して、分析方法、結果の解釈。(4 回) 27-30 課題の明確化へと発展させることができる。(4 回) (藤原奈佳子／30 回)				
評価基準				
1. 授業への参加状況 30% 2. プレゼンテーション 35% 3. 課題レポート 35% A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 国内外の文献検索法を学び、文献の系統的整理ができる。				
2. 既存資料の利用に際して、分析方法、結果の解釈、課題の明確化へと発展させる能力を修得できる。				

3. 研究計画作成に必要な知識について学習するとともに自己の課題について探究することができる。				
---	--	--	--	--

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MB2301	看護保健管理学演習MⅡ	1 年/後期	2 単位
担当教員		課 程	
藤原奈佳子		博士前期課程	

授業計画詳細
授業目的 看護管理学および保健管理学領域における ①リーダー能力 ②管理者能力 ③現場指導者としての教育能力の強化をめざす。これらの能力内容を理解し、知識・技能・コミュニケーション力を含めて計画的、効果的な実践現場での展開方法を学ぶ。そのために(1)リーダー、(2)管理者、(3)教育支援者のそれぞれの役割と機能について、実習病院でのフィールドワークを体験し、その前後に学内演習を加える。
授業内容 看護マネジメントに求められる能力について、(1)実践リーダー(チームリーダー、チーム医療・他職種との調整者、退院支援調整者)、(2)管理者(看護師長、看護部長)、(3)教育支援者(スタッフ、学生の教育担当師長)のそれぞれの立場における役割の認識と機能を果たす能力を理解し、看護マネジメントとして実施展開する能力の強化・向上を目指す。上記の三つの課題について、実習病院を中心として、その前(準備)と後(まとめ)は学内での演習を設定する。この演習における看護マネジメントは、看護管理に関する論理的な考え方に加えて、医療体制、ヘルスケアシステムにおける社会資源など患者、家族をとりまく保健医療体制についても事前に学び、早期の退院支援が地域での継続ケアに有機的につながることを意識しながら、実習病院でのとりくみや看護マネジメントの実際に接することにより自施設での実践力の強化・向上をめざす。
留意事項 1. 学内と現場での演習において積極的に参加し、現場の指導者やスタッフの協力が得られるように調整する。 2. 授業の課題について事前に情報収集し、レポートを期日ごとに作成し発表や報告を行う。 3. 自己の看護マネジメントの実践力強化・向上について具体的に評価する。 なお、本科目の単位修得には、授業時間以外に文献研究、発表時間等、およそ授業時間の3倍程度の自己学修を要します。
教材
教員および実習病院担当者より適宜提示
授業計画 (30 回) (1)実践リーダー(チームリーダー、チーム医療・他職種との調整者、退院支援調整者)、(2)管理者(看護師長、看護部長)、(3)教育支援者(スタッフ、学生の教育担当者)のそれぞれの立場の役割と機能を理解し、現場での看護マネジメントとしての実践展開能力の強化・向上をめざす。 上記三つの課題を達成する方法は以下のとおりとする。 1 教員の指導のもと、学内で演習の準備のための文献検討と討議によるレポートを作成する。 2 実習病院の管理者(または担当者)の指導のもと、可能な範囲で実践リーダー、管理者、教育支援者に同行またはインタビューを実施し、実際の行動や態度、考え方をとおして、その行動や態度がもたらす影響について看護管理特論M、看護保健管理学特論Mの授業内容とあわせて考察する。 3 教員の指導のもと、学習内容を深めるためのまとめをする。各自のレポートに基づいて学内での発表・討論から本演習履修学生が情報を共有することで演習効果を増大させる 1-4: (学内)三課題のフィールドワークの準備(文献調査、討論、レポート作成)(4 回) 5-12: (病院)病院における看護実践にかかわるリーダー(チームリーダー、チーム医療・他職種との調整者、退院支援調整者、中堅看護管理者、看護副師長、主任、係長)の役割・機能を果たす実践力の向上(8 回) 1)病棟スタッフマネジメント、チームナーシングの遂行方法 2)良質なチーム医療展開のための他職種との調整方法

3) 安心できる継続ケアへの展開、退院支援調整のとりくみ方法 4) 倫理的調整の方法 5) リーダーの役割と機能 13-22：（病院）病院における看護管理者（看護師長、看護部長）としての役割・機能を果たす実践力の向上（10回） 1. 看護師長（中堅管理者）として 1) 病棟の理念に基づく病棟運営 2) キャリア開発におけるスタッフのキャリア発達へのアプローチ方法 3) 質の高い看護の提供のためのとりくみ 4) 看護師長の役割と機能 2. 看護部長（トップ管理者） 1) 病院の方針、看護部の方針をふまえた看護部の組織づくり 2) 他職種、他部門との調整、交渉の方法 3) 人的資源管理と組織力強化へのとりくみ 4) 看護の質と財務管理 5) 看護部長の役割と機能 23-28：（病院）病院における教育支援者（スタッフ、学生の教育担当者）としての役割・機能を果たす実践力の向上（6回） 1. スタッフへの教育支援 1) 看護実践力の評価方法 2) 新卒看護職員の教育方法 3) 職務満足をもたらす教育方法の工夫 2. 看護学生の実習における教育支援における留意点 3. 教育支援者の役割と機能 29-30：（学内）上記の三課題のレポートに基づく発表・討論・まとめ（2回） （藤原奈佳子／30回）				
評価基準				
1. 授業への参加状況 30% 2. プレゼンテーション 35% 3. 課題レポート 35% A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 看護実践リーダーの役割・機能の理解と効果的な看護マネジメントの展開方法について理解し、自己能力を判断して自施設で有効な範囲で演習の成果を活用できる。				
2. 管理者の役割・機能の理解と効果的な看護マネジメントの展開方法について理解し、自己能力を判断して自施設で有効な範囲で演習の成果を活用できる。				
3. 教育支援者の役割・機能の理解と効果的な教育の展開方法について理解し、自己能力を判断して自施設で有効な範囲で演習の成果を活用できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MB9102	看護教育管理学特別研究 M I	1 年／通年	4
担当教員		課 程	
藤原奈佳子		博士前期課程	

授業計画詳細			
授業目的			
本研究目的は看護教育・看護管理の質保証をめざして、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む、看護教育学・看護保健管理学の領域を看護教育管理学分野としている。その分野で広い視点が持てるように、分野で指導を行う。学生は分野の中から主指導教員を選び、その教員と相談して副指導教員を選択する。専門的視点から科学的思考力と研究能力を持った、看護の実践リーダー・管理者・教育者として社会貢献できる高度専門職業人となるために必要な研究能力を身につける。適切で実行可能な研究計画書を作成し、研究計画発表会での発表を目指す。			
授業内容			
本授業科目は看護の質保証を重視して、専門性の高い看護を行うための科学的な知見を明らかにしていくために、看護の現象をよりとらえやすい諸要素に分解し、それらの要素間にどのような関連があるのかについての枠組みを明確化し、看護の実践に有用な研究を行う。 研究は分野の広い視野を基盤として個別研究を行う。看護の改善・改革のために、看護サービスの提供方法、看護システム、看護教育内容と展開方法などについて取り組む。研究の過程を理解し、研究計画書を作成する。研究の課程は、①研究テーマと目的の決定、②研究倫理を含めた研究デザインの選定、データ収集法、③データ分析法、④研究の精度を保つ質管理方法、⑤修士論文計画書を完成する。 授業は、学生が広い視野をもつために分野の教員が学生のテーマに合わせて討論を主体として講義を含めて展開する。学生主体で研究過程に沿って取り組み、教員は上記①～⑤に沿って指導する。 看護教育領域では、看護教育および基礎看護領域における独自の研究テーマ・方法を含む研究計画書を作成する。 （篠崎恵美子） 看護教育領域では、看護教育および基礎看護領域における独自の研究テーマ・方法を含む研究計画書を作成する。 研究テーマは、フィジカルアセスメントにコツと落とし穴、強くなる病態関連図、例えば糖尿病、臨床の看護実践家のアセスメント教育、基礎看護実習に関する振り返り、学び、模擬患者による解釈モデル効果の経時的特徴、看護技術に関する研究、臨床と教育の両者が求める呼吸に関するフィジカルアセスメントに関する課題を探索する。 （伊藤千晴） 看護教育領域では、看護教育および基礎看護領域における独自の研究テーマ・方法を含む研究計画書を作成する。 研究テーマは学生に基礎看護学実習に関する研究、フィジカルアセスメントに関する研究、看護の歴史、新人看護師の研究と倫理教育の歴史的変遷についての研究を行う。 （藤原奈佳子） 看護保健管理学領域では、看護政策および看護管理学、医療管理学領域における独自のテーマ・方法を含む研究計画書を作成する。 1. いずれのテーマにおいても看護実践現場の組織特性を踏まえた看護マネジメントの改善や変革のために新たな知見の提案ができること。 2. 研究手法は、看護・医療の質を構造（提供体制）、過程（ケアや医療の内容）、成果（実際に得られた効果）の視点から測る評価研究、調査研究、介入前後比較研究、関係探索研究、疫学研究手法を用いる。 3. 研究テーマ例は、①看護記録を活用した生活支援システム ②多職種連携と協働 ③医療専門職の人的資源活用 ④看護実践における質評価 ⑤院内の療養環境、医療安全 ⑥病院の機能分化をふまえたへ			

ルスケアシステム ⑦難病・慢性疾患患者の継続看護など。				
留意事項				
1. 国内外の文献などから情報収集を行い、レビューを作成する。 2. 授業への出席率と研究への積極的な取り組みが求められる。 3. レポートなどの提出物と発表資料は期日ごとに提出する。				
教材				
・学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。				
授業計画				
1-20 共通性が高く有用な研究課題と手法の代表的な研究例などを用いて、担当教員並びに看護教育管理分野が紹介し、併せて教授する。 21-23 研究テーマと目的を決定：（自己の関連研究において国内外文献のクリティークを行い、研究テーマ・研究目的を検討し、研究に関する社会的ニーズの分析・研究の新規性、独創性・社会的価値・研究倫理を明確にする。 24-27 研究デザインの選定、論文レポートと研究方法の適切性・妥当性を具体的に検討 28-30 研究目的を達成するために実行可能なデータ収集法を選択 31-35 データ分析法の選択 36-41 研究プロセスにおいて研究の精度を保つ質管理方法 42-48 研究計画書を作成 49-52 看護学研究科委員会による学生とテーマ関連教員参加の下「発表会」において準備・発表・討論 53-60 発表した研究計画の評価に基づいて修正し、また看護教育管理学関連教員が参加し助言の下、研究計画書を完成する。				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価 A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 研究論文のクリティークができる。				
2. 研究テーマと目的について社会的ニーズの分析・研究の社会的価値・研究倫理を検討し、研究テーマと目的を決定できる				
3. 適切な研究デザインを選択し、研究の具体的な方法を決定できる				
4. 研究データ収集方法の具体化とデータ分析法を決定できる				
5. 看護教育管理学分野の看護活動の改善・改革のために新しい知見が予測される研究計画を研究計画発表会で発表できる				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MB9202	看護教育管理学特別研究Ⅱ	通年	4
担当教員		課程	
篠崎恵美子 藤原奈佳子 伊藤千晴		博士前期課程 2年	

授業計画詳細
授業目的 特別研究Ⅱでは特別研究Ⅰの研究計画書に沿って看護教育・看護管理の質保証をめざして、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む。看護教育学・看護管理学の領域を看護教育管理学分野としている。その分野で広い視点が持てるように2つの領域でのいずれかにおいて個別専門的視点から科学的思考力と研究能力と看護の実践リーダー・管理者・教育者として社会貢献できる高度専門職業人となるために必要な研究能力を身につける。そのために倫理審査の承認を得て、研究を実施し、中間・最終発表会で研究について発表する過程を経て、研究論文を完成させる。 授業内容 本授業科目は看護の質保証を重視して、専門性の高い看護を行うための科学的な知見を明らかにしていくために、看護の現象をよりとらえやすい諸要素に分解し、それらの要素間にどのような関連があるのかについての枠組みを明確化し、看護の実践に有用な研究を行う。そのため研究目的を達成するために特別研究Ⅰで作成した研究計画に沿って次の①～⑧の通り研究を進める。研究の精度を保つ方法で①データを収集する。②効率的なデータ入力方法、③妥当なデータ分析方法によって、研究結果の信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて結果をまとめる。④研究結果データに基づいて、適切な考察と結論を導き論理的にまとめる。⑤研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を適切に検討する。⑥「修士論文中間発表会」において評価を受けて修士論文を修正し、完成させる。 看護教育領域では、看護教育および基礎看護領域における独自の研究テーマ・方法を含む研究計画書を作成する。 (篠崎恵美子) 看護教育学領域では、看護教育および基礎看護領域における独自の研究テーマ・方法を含む研究計画書を作成する。 研究テーマは、フィジカルアセスメントの教育・実践に関する研究、看護技術教育に関する研究、コミュニケーションスキルに関する研究などである。 (伊藤千晴) 研究テーマは、看護教育に関する研究（基礎教育・継続教育）、看護倫理に関する研究などである。 (藤原奈佳子) 看護保健管理学領域では、看護政策および看護管理学、医療管理学領域における独自のテーマ・方法を含む研究計画書を作成する。 1. いずれのテーマにおいても看護実践現場の組織特性を踏まえた看護マネジメントの改善や変革のために新たな知見の提案ができること。 2. 研究手法は、看護・医療の質を構造（提供体制）、過程（ケアや医療の内容）、成果（実際に得られた効果）の視点から測る評価研究、調査研究、介入前後比較研究、関係探索研究、疫学研究手法を用いる。 3. 研究テーマ例は、①看護記録を活用した生活支援システム ②多職種連携と協働 ③医療専門職の人的資源活用 ④看護実践における質評価 ⑤院内の療養環境、医療安全 ⑥病院の機能分化をふまえたヘルスケアシステム ⑦難病・慢性疾患患者の継続看護などである。 留意事項 1. 科学文献などから情報収集と分析、論理的な文章化が求められる。 2. レポートなどの提出物は期日ごとに行う。 3. 授業への積極的参加と研究への積極的な取り組み、行動力が求められる。 教材

1. 学生は自己の研究課題に関連した参考文献は自身で検索する。				
2. 教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。				
授業計画 (60 回)				
1-10 研究倫理審査委員会の承認を得て、研究計画に沿って研究の実施準備				
11-20 研究の精度を保つ方法でデータを収集				
21-35 効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果の信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化研究結果に基づいて、適切な考察と結論を導き論理的にまとめる				
36-43 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討				
44-50 「論文発表会」において適切な準備の上で発表・討論				
51-60 発表した論文の評価に基づいて修正し論文を完成する				
評価基準				
6つの到達目標について評価する				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 倫理審査の承認を得ることができる				
2. 研究計画に沿って研究を進め、研究の精度を保ちデータ収集ができる				
3. 適切なデータ分析方法によって結果の信頼性を高め妥当な解釈ができる				
4. 適切な図表を加えて結果をまとめることができる				
5. 研究結果に基づいて適切な考察と結論を導くことができる				
6. 研究目的から結論までの論旨の一貫性と信頼性・妥当性が確認できる				
7. 「中間発表会」「最終発表会」において、評価を受け、論文を修正することができる				
8. 決められた期日までに最終論文を提出することができる				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MD9201	成人・高齢者看護学特別研究MⅡ（高齢者看護学）	2年/通年	4単位
担当教員		課 程	
倉田節子		博士前期課程 2年	

授業計画詳細
授業目的 科目の目的は、科学的思考力と研究能力を有する看護の実践リーダー・管理者・教育者として社会貢献できる高度専門職業人となるために必要な研究能力を身につけることである。そのために、特別研究Ⅰで作成した研究計画に沿って研究目的を達成するために適切に研究を進め、論文を作成する。すなわち、作成した研究計画に沿って、研究データを収集し、妥当なデータ分析を行い、精度の高い結果を導き、その解釈の妥当性を検討し、十分な文献検討により考察と結論を導き、研究論文を完成することが本科目の目的である。なお、研究の一連の過程では、倫理審査の承認を得ること、「中間発表会」で発表できること、「最終発表会」で発表できること、決められた期日までに最終論文の提出ができることが求められている。
授業内容 特別研究MⅠで作成した研究計画書について研究倫理委員会の承認を得た後に、研究計画に沿って以下のような研究過程を踏み、論文を作成する。先ず、国内外の学会等で得た最新の知見を研究計画に加味して、研究実施の準備をする。次に研究の精度を保つ方法でデータを収集し、データ分析の結果に基づいて、適切な考察と結論を導き論理的に論文としてまとめる。その上で、「論文発表会」において評価を受けて、さらに論文を修正し完成させる。そのために、授業計画では ①講義と討論では院生が看護学研究を遂行する上で、有効と考える看護研究の主要な課題と研究手法について研究例を用いて展開する。②個別研究では、研究プロセスに沿って期日ごとに研究レポートを作成し、発表・討論・評価を行い必要に応じて講義を加える。なお、看護研究においては、研究看護の対象である患者と家族の意思決定や倫理的調整が特に重要である。いずれの研究テーマにおいても、ケアの利用者と家族へのケアの質保証を重視し、実践的に何らかの新しい知見を含む成果を出すことを考えて必要なケアの評価を加えて、論文を作成する。
評価方法 科目の到達目標の達成度により評価する
留意事項 授業への積極的な参加と研究への積極的な取り組み、行動力が求められる。 1) 科学文献などから情報収集と分析を行う。 2) 論理的な文章化を求める。 3) レポートなどの提出物は定められた期日ごとに行う。
教材 1. 学生は自己の研究課題に関連した参考文献は自身で検索する。 2. 教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。
授業計画(60回) 院生は独自の研究テーマを設置して研究を行うが、看護のケアの質保証と、看護の改善・改革をめざすように留意する。科学的で実践的な知見が得られることを目標に、作成した研究計画書に沿って研究を実施し、得られたデータを分析し、その結果に基づいて適切な考察と結論を導き、論理的な論文としてまとめる。その上で、「論文発表会」において評価を受けて、修士論文を修正し完成させる。 1-6. 研究倫理審査委員会の承認を得て、研究計画に沿って研究の実施準備 7-16. 研究の精度を保つ方法でデータを収集 17-26. 効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果の信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化 27-34. 研究結果に基づいて、適切な考察と結論を導き論理的にまとめる 35-38. 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討する

39-42. 学生と教員参加による「論文発表会」において適切な準備の上で発表・討論				
43-48. 発表した修士論文の評価に基づいて修正し論文を完成				
49-60. 論文審査委員による審査に基づき、必要時に論文を修正し、最終完成する				
評価基準				
6つの到達目標について評価する				
A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 倫理審査申請書を作成・提出し、倫理審査の承認を得る。				
2. 研究計画に沿って研究を進め、研究の精度を保ちデータ収集ができる。				
3. 適切なデータ分析方法によって結果の信頼性を高め妥当な解釈ができる。				
4. 適切な図表を加えて結果をまとめることができる。				
5. 研究結果に基づいて適切な考察と結論を導くことができる。				
6. 研究成果を「中間発表会」で発表できる。				
7. 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性が確認できる。				
8. 「最終論文発表会」で発表して、評価を受け、論文を完成することができる。				
9. 決められた期日までに最終論文の提出ができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
ME4101	国際保健看護学特論M	1 / 前期	2 単位
担当教員		課 程	
西川 まり子		博士前期	

授業計画詳細	
授業目的	
国際保健看護学を学ぶことによって近隣者もしくは世界の人々に平等なヘルスケアを提供することをめざす。そのために、国際社会においてヘルスの分野で活躍できる基礎を学び、それぞれの研究の背景に取り込む事や将来その実践リーダーや教育者へとつなげる事ができる。 このクラスでは、(1) 将来、国際社会においてヘルスの分野で活躍する基礎を学ぶために、国際的なヘルスに係る指標から、世界のヘルス状況をヘルスシステムと共に把握する。(2) グローバル化の中での人々の移動や住民のヘルスと多文化看護を理解する。国境を越えて移動している人々の国家間のギャップと問題点を理解する。(3) 看護と他職種連携による、平等なヘルスを提供するための最新の状況と問題点を理解し、その対策を検討できる。(4) 国内において国際保健看護学のイニシアチブをとることが出来る。	
授業内容	
国際的な視点を踏まえた内容がそれぞれの研究の中に評価される形で組み込まれるように学ぶ。 自立した実践リーダー・管理者・教育者の育成のために国際社会においてヘルスの分野で活躍する視野を深める。授業は、国際保健看護学の専門的な知識をより深める。内容は、国際保健看護特論を学ぶ意義、世界のヘルスの指標、ヘルスの動向、グローバル化による人々の移動。日本における医療の国際化と国境を越えて流入している人々へのヘルスプロモーションを含めた現状と問題点として外国人旅行者の対策、中国残留日本人孤児帰国者（主に広島と京都）、短期就労者、中国人留学生を学ぶ。海外のヘルス事情では特に、発展国であるアメリカ東海岸への移民としてチベット人、カンボジア人、ラオス人の生活。途上国では、ケニアのスラムにおけるヘルス事情、ベトナムのヘルス事情、難民キャンプ場における現状と対策。海外のヘルス事情授業①～⑦のシリーズで深める。最後にまとめとして、レポート作成とプレゼンテーション・討論をおこなうことにより、具体的に習得できるようにする。	
留意事項	
学生には積極的に質疑・討論、発表に積極的に参加することを期待する	
教材	
日本国際保健医療学会編『国際保健医療学 第3版』杏林書院(2013) ISBN978-4-7644 ¥3200 UNICEF『世界子供白書』最新版¥240、UNICEF『基礎リーフレット』最新版, ¥10 <資料> Christina Harlan (2014). Global Health Nursing: Narratives from the Field, Springer Pub Co, New York. ISBN-13: 978-0826121172 ¥6650 <u>デイヴィッド ワーナー</u>, 若井 晋 (翻訳)『いのち・開発・NGO』1998, 新評論 ISBN13:978-4794804228 ¥3990 イシメール・ベア, 忠平美幸 (翻訳)『戦場から生きのびて ぼくは少年兵士だった』河出書房新社(2008). ISBN-13: 978-4309204864 ¥1728 西川まり子『目で見る国際看護』DVD I II III, 医学映像教育センター(2012) ¥29400 X3 その他、クラスに合わせて、本や論文を適宜配布	
授業計画 (15回)	
国際保健看護学の総論：国際保健看護学特論を学ぶ意義 1. 国際保健看護学を学ぶ意義、動向、世界のヘルス指標、 2. 世界のヘルス事情① 看護の先駆者 フランス人ジェン・マウス、世界のヘルスの歴史的展開と現代の課題。将来に向けて。SDG's ゴールに向けた世界の動きと日本 3. 世界のヘルス事情② 国際的な医療経済とヘルスシステム：医療のアクセス	

4. 世界のヘルス事情③ ヘルスと教育、ジェンダー問題
5. 世界のヘルス事情④ ジェンダーの問題、世界の人口と家族計画、FGM の概要
6. 世界のヘルス事情⑤ 世界の人権、テロ、少年兵士の問題、ヘルスと教育、孤児
7. 世界のヘルス事情⑥：途上国の環境とヘルスの問題：ケニアのスラムにあるキベラにおけるヘルス事情、感染症
8. 世界のヘルス事情⑦：発展国のヘルス問題：肥満（特にアメリカやオーストラリ）、他
9. 文化人類学・医療人類学と共に学ぶ健康や病気のとらえ方
10. グローバル化の中での人々の移動：日本における医療の国際化と国境を越えて流入している人々へのヘルスプロモーションを含めた現状と問題点：中国残留日本人孤児帰国者（主に広島と京都）、短期就労者、増加する中国人留学生の特徴。海外の移民：アメリカ東海岸への移民：チベット人、カンボジア人、ラオス人の生活
11. グローバル化による人々の移動：日本における医療の国際化と国境を越えて流入している人々へのケアの実際。外国人旅行者の対策を含める
12. 原住民：アボリジニーやアメリカインディアンの生活や社会的背景に由来するヘルスへの影響
13. 紛争による問題：難民保健（シリア、スーダン等の難民キャンプでのヘルスや ICN による看護師の移動図書等。
14. まとめ
15. プレゼンテーション・討論

評価基準

- ① クラスへの参加度 20% ②テーマごとのレポート（小レポート）25%、③一つの国もしくはテーマでのレポートと発表 45%、④地図のクイズ 10%

A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good)

B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
世界のヘルスの指標と、ヘルスへのサポートにおける世界トップが考えている目標について理解できる				
世界のヘルス問題（感染症を含める）、看護に対して、ポイントを絞ってその内容を深めることができる				
グローバル化の中で、難民を含む世界の人々の移動に伴うヘルスに関連する問題を理解できる。また、国境を越えて移動している人々の国家間のギャップと問題点とケアを理解することができる				
看護と他職種連携による、平等なヘルスを提供するための最新の状況とその問題点を理解し、その対策を検討できる				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
ME9201	広域看護学特別研究MⅡ	2年/通年	4単位
担当教員		課程	
藤原奈佳子		博士前期課程	

授業計画詳細
授業目的
広域看護学特別研究MⅡの目的はMⅠ研究計画に沿って、研究倫理委員会の承認を得た後に、研究データを収集し、得られたデータの分析を行い、結果の解釈を検討し、論文を作成する。
授業内容
特別研究MⅠで作成した研究計画書に沿って研究を進める。データの収集は倫理的配慮のもとに適切に行う。データの分析は量的データでは記述統計を行い、適切な統計手法を用いて分析する。結果から、仮説の検証を行い、解釈・考察を行う。 質的データは主にコード化、カテゴリー化して中核概念を抽出し、研究課題に応じた解釈法で結果と考察を行う。これら論文作成の一連のプロセスを教授する。 (島内節) 在宅看護の研究はいずれのテーマであっても在宅ケアの利用者と家族のケアの質保証を重視する。そのために看護の評価研究を含め、必要に応じて介入研究を行う。研究手法には、主に看護の実践例の調査研究を主体としてRCTやコホート研究を含む。事例分析・介入によるアウトカム分析などである。在宅看護は多様な条件をもつ在宅ケア利用者と家族の生活の場で、チームケアを基盤として医療と生活支援を行う特徴がある。そこでデータ収集において精度を保つ工夫・分析・考察について注意する。 ① 終末期ケア ② 要介護高齢者の自立支援 ③ アセスメントとアウトカム評価 ④ 在宅ケアのリスク要因の予防とケア方法 ⑤ 心身症状の発生予防とケア ⑥ ケアマネジメント ⑦ サービスの組織化 ⑧ 病院から在宅ケアの移行支援 ⑨ ケアシステム評価 ⑩ 在宅ケアの質管理 ⑪ 費用対効果 (石井英子) 「療養者と家族のQOLの向上に寄与するために、退院支援の体系化、訪問看護ステーションと多機関との連携促進ツールの開発を目指した質的・量的研究指導を行う。 (三徳和子) 地域住民の喫煙、乳幼児虐待、神経難病、認知症、要介護高齢者の重度化予防をテーマに記述統計、多変量解析などを用いて結果を解析し、論文作成指導を行う。 (西川まり子) 通訳を含めた言葉を中心にした支援評価、②ヘルスケアシステムを中心とした評価、③多様な文化的な背景を考慮したケアへの支援、④施設の受け入れ準備体制評価、⑤費用対効果、⑥多職種連携プレーの評価、⑦スタッフの教育体制や管理体制等。(2)外国人への調査の例は、①病気になりヘルス施設を受診するにあたり、その不安や心配要因の評価、②外国人の中でも比較的渡航医療が進んでいる国(ヨーロッパ諸国)と他国の比較からの訪日者の特徴やその対策、③外国人留学生のヘルス行動の評価(例としては、留学性のうち多くの比重を占めている中国系留学生)。 (市川誠一) グローバル化に伴い地域保健、医療・看護においては国際感染症への対応が必要となっている。感染症は、対策が届きにくい脆弱な環境にある人たちにおいて流行することが多く、またエイズに見るように、ジェンダー、セクシュアリティ、移民(外国人)、職業などへの偏見や差別、そして感染者への差別が予防や医療の遅れを生んでいる。HIV/エイズ、性感染症などの感染症をテーマに、発生動向、疫学研究、感染リスクと予防対策、医療と看護などの先行研究を総括し、独自の研究課題、研究デザイン、研究手法等の考案、研究成果についての多面的な視点からの考察などを踏まえた研究論文作成を指導する。 (郷良淳子) 「児童思春期看護に関する研究」「精神科における慢性期患者のリハビリテーションや退院促進」に関する研究を指導する。看護の質の向上や臨床における教育的課題QOLの向上、課題が明らかになる実践的研究を質的研究のアプローチを用いて探求し、実現可能な精神科看護実践に寄与できる研究を指導する。 (福田由紀子) 1.6歳児健診における母親のニーズ、疾患を持ちながら生活をする人のQOLの向上のための支援について、健康に関する課題抽出と課題に対する支援に関する研究指導を行う。

留意事項				
根拠に基づいた結果にから導きだした論文を作成する。 レポートなどの提出物は期日ごとに行う。 授業への出席率と研究への積極的な取り組みが求められる。				
教材				
適宜示す。				
授業計画（１５回）				
１－５ 妥当性のある調査方法によって、データの収集を行う。 ６－９ 得られたデータの入力を行う。 １０－１９ 得られたデータについては、量的データは記述統計を行い、その後目的を明らかにできる統計手法を用いて分析し、結果を導く。出された結果から仮説検証と、解釈・考察を行う。質的データは主にコード化、カテゴリー化し中核概念を抽出する。研究課題に応じた解釈法で結果と考察を行う。 ２０ 研究テーマに沿って結果および考察をまとめ、発表する。 （広域看護学分野の学生と教員による意見、助言） ２１－３０ 論文の作成を行う。				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価 A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
１．研究計画に沿って研究を進め、研究の精度を保ちながらデータ収集ができる。				
２．適切なデータ分析によって結果の信頼性を高め妥当な解釈ができる。				
３．適切な図表を加えて結果をまとめることができる。				
４．研究結果に基づいて適切な考察と結論を導くことができる。				
５．研究目的から結論までの論旨一貫性がある論文の作成ができる。				
６．「論文発表会」において評価を受け、論文を修正し完成することができる				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
ME9203	広域看護学特別研究MⅡ	2年/通年	4単位
担当教員		課程	
西川まり子		博士前期課程	

授業計画詳細			
授業目的			
広域看護学特別研究MⅡの目的はMⅠ研究計画に沿って、研究倫理委員会の承認を得た後に、研究データを収集し、得られたデータの分析を行い、結果の解釈を検討し、論文を作成し、決められた期日までに最終論文提出する。			
授業内容			
特別研究MⅠで作成した研究計画書に沿って研究を進め、中間発表会発表、最終発表会発表を行う。データの収集は倫理的配慮のもとに適切に行う。データの分析は量的データでは記述統計を行い、適切な統計手法を用いて分析する。結果から、仮説の検証を行い、解釈・考察を行う。 質的データは主にコード化、カテゴリー化して中核概念を抽出し、研究課題に応じた解釈法で結果と考察を行う。これら論文作成の一連のプロセスを教授する。 (西川まり子) (1) 施設側の調査例は、①通訳を含めた言葉を中心にした支援評価、②ヘルスケアシステムを中心とした評価、③多様な文化的な背景を考慮したケアへの支援、④施設の受け入れ準備体制評価、⑤費用対効果、⑥多職種連携プレーの評価、⑦スタッフの教育体制や管理体制等。(2) 外国人への調査の例は、①病気になりヘルス施設を受診するにあたり、その不安や心配要因の評価、②外国人の中でも比較的渡航医療が進んでいる国(ヨーロッパ諸国)と他国の比較からの訪日者の特徴やその対策、③外国人留学生のヘルス行動の評価(例としては、留学性のうち多くの比重を占めている中国系留学生)。(3) 海外における調査。 (2) グローバル化に伴い地域保健、医療・看護においては国際感染症への対応が必要となっている。感染症は、対策が届きにくい脆弱な環境にある人たちにおいて流行することが多く、またエイズに見るように、ジェンダー、セクシュアリティ、移民(外国人)、職業などへの偏見や差別、そして感染者への差別が予防や医療の遅れを生んでいる。HIV/エイズ、性感染症などの感染症をテーマに、発生動向、疫学研究、感染リスクと予防対策、医療と看護などの先行研究を総括して計画した独自の研究課題について、研究デザイン、研究手法等の研究計画書の倫理審査承認を経て研究を実施し、最終論文を作成する。			
留意事項			
根拠に基づいた結果から導きだした論文を作成する。 レポートなどの提出物は期日ごとに行う。 授業への出席率と研究への積極的な取り組みが求められる。			
教材			
適宜示す。			
授業計画 (15回)			
1-5 妥当性のある調査方法によって、データの収集を行う。 6-9 得られたデータの入力を行う。 10-19 得られたデータについては、量的データは記述統計を行い、その後目的を明らかにできる統計手法を用いて分析し、結果を導く。出された結果から仮説検証と、解釈・考察を行う。質的データは主にコード化、カテゴリー化し中核概念を抽出する。研究課題に応じた解釈法で結果と考察を行う。 20 研究テーマに沿って結果および考察をまとめ、発表する。			

(広域看護学分野の学生と教員による意見、助言)				
21-30 論文の作成を行う。				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 倫理審査の承認を得る				
2. 研究計画に沿って研究を進め、研究の精度を保ちながらデータ収集ができる。				
3. 適切なデータ分析によって結果の信頼性を高め妥当な解釈ができる。				
4. 適切な図表を加えて結果をまとめることができる。				
5. 研究結果に基づいて適切な考察と結論を導くことができる。				
6. 中間発表会で発表し評価を受ける				
7. 最終発表会で発表し評価を受ける				
8. 研究目的から結論までの論旨一貫性がある論文の作成ができる。				
9. 決められた期日までに最終論文提出ができる				